

# ANNUAL REPORT

2012 - 2013

No. 36



Division of Policy and Planning Sciences,  
Faculty of Engineering, Information and Systems,  
University of Tsukuba

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済、経営、都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的、数理的、計量的）アプローチによって解明し、政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。本域教員は、教育組織として大学院システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻、社会工学専攻、経営・政策科学専攻に専任または兼担として所属している。それぞれの構成員は、国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように、また良き教育者であるように努めている。

2013年6月現在の本専攻所属の教員は、教授24名、准教授25名、講師8名、助教6名の合計63名である。本専攻教員の2012年度中の研究・教育活動は、以下のように総括できる。

#### (1) 研究活動

本専攻の研究活動は、2012年度も全分野（社会経済、経営工学、都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては、最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入に努め、外部研究資金を着実に獲得している。2012年度の科学研究費の採択本数は54件であり、採択金額は、前年度に比べて大きく増加した。受賞は、国内外から4件であった。以上のように、研究活動の絶対量は大きく増加した。

また、研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2013年6月現在、リサーチユニット7件、リサーチグループ13件にて本域教員が代表者となっている。

#### (2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織は、システム情報工学研究科博士後期課程社会システム・マネジメント専攻、リスク工学専攻に加えて、同研究科博士前期課程の社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻、リスク工学専攻、生命環境科学研究科環境科学専攻である。学類教育組織は、理工学群社会工学類、および社会・国際学群国際総合学類である。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。加えて、社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻では、2008年度より院生活動支援プロジェクトを実施し、自前の予算で学生による国内外の研究発表を経済的に支援してきた。2012年度は国内で28名、海外で3名の研究発表を助成した。また、社会システム・マネジメント専攻では、2007年度から開始した「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修生として社会人を継続的に受け入れている。さらに、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻さらには社会工学類の一部の講義では、教育の高度化を目指し、グループ作業、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。

なお、社会工学同窓会、社工都市計画同窓会を通すなど、卒業生との交流も本学

では最も活発である。特に、2008年から社会工学類の優秀な卒業生3名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

### (3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本学国際交流協定においては、本域として責任を持っているものとして、清華大学（中国）、台北大学（台湾）、漢陽大学校（韓国）、南オーストラリア大学、南オーストラリア・フリンダース大学、アデレード大学（以上オーストラリア）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）との協定であり、中国科学研究院（中国）との協定に参加している。これらの大学・研究機関とは、若干名ながら研究者および学生の交流・交換が続いている。外国人研究者の受け入れと教員の海外派遣は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることを示している。

さらに、実学も重視し自治体や企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。たとえば、2011年3月の東日本大震災を受け本学が茨城県内5市町村と震災復興に関する協定を締結した。この際には、本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウムの開催など本学社会連携活動へ大いに貢献した。

### (4) 組織

本域教員の流動性が高く、それに伴い審査付学术论文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもつ。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。昨年度から内容を一新した本報告書が、そのような課題に対応するための資料を提供し、構成員及び関係者の意識向上に貢献できれば幸いである。

2013年6月11日

社会工学域長  
社会システム・マネジメント専攻長  
大澤 義明

## I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者（2013/6/1 現在）

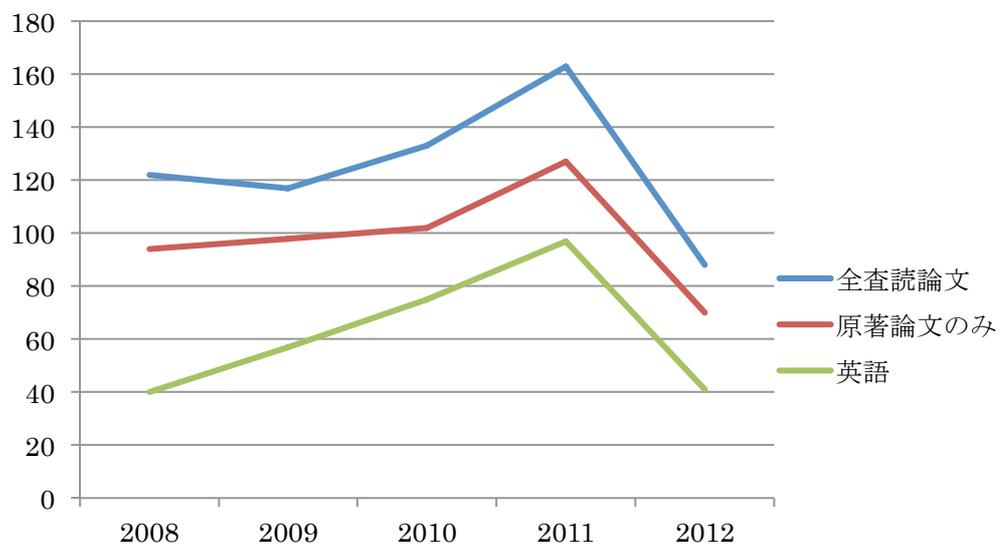
課題名（領域）	概要	代表者
サービス組織の経営学（人文系）	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。	岡田 幸彦
コンパクトシティ（理工系）	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
サービス資源の大敵配分（理工系）	最適化モデル、確率モデル等の数理モデルを用いて、サービス産業および自治体における、人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い、サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
都市・地域の経営とデザイン（理工系）	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点的形成することを目的とする。	有田 智一
医療サービス科学（複合系）	本学附属病院とシステム情報系の連携により、患者と病院スタッフの満足度の実証的研究を基に、数理最適化アルゴリズムを適用して、入院患者に手術室と空き病床を割当てるソフトウェアシステムを研究開発する。	高木 英明
都市のOR（複合系）	都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供する。	大澤 義明
空間情報科学（複合系）	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員（2013/6/1 現在）

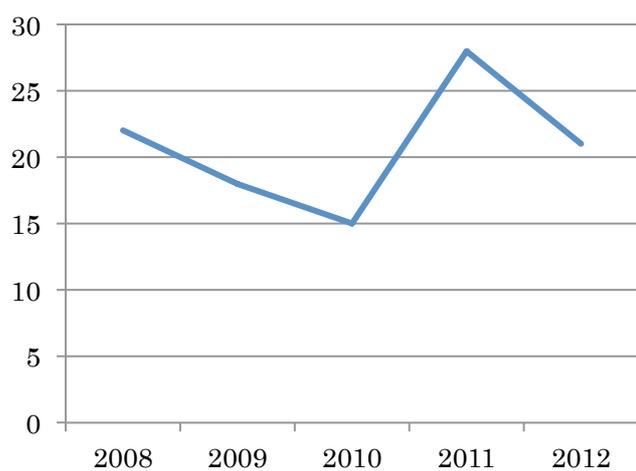
課題名	概要	社会工学域メンバー
ソフトコンピューティング（複合系）	ソフトコンピューティング(SC)に基づく知的情報処理に関する研究拠点形成を目指している。SCに基づく多目的知的情報処理システムの構築も目標としている。2011年度から3年間のSC研究を中心とする二国間共同研究にも力を入れる。	イリチュ美佳（代表者）
ミクロ計量経済学的分析手法の開発と応用（人社系）	大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなミクロ計量経済学的手法の開発と、日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的とする。	大久保正勝（代表者） 浅野哲、桃田朗
社会における人間の心的内部構造—理論・実験・シミュレーションによる研究（複合系）	プレイヤー達がどのようにして経験・記憶から社会構造を理解するかは、ゲーム理論と経済学の基本問題である。この基本問題を理論・実験・シミュレーションなどの様々な観点から研究するのが、本プロジェクトの目的である。	秋山英三（代表者）、 渡邊直樹、石川竜一郎
被災地復興と地域減災のための都市リスク評価（理工系）	都市に潜む様々なリスクを評価し、実質的な都市防災に資することを目的として活動している。そのために、学術的な調査研究のみならず、自治体・住民・地域の防災活動や防災教育に関する支援も行う。	梅本通孝（代表者）、 糸井川栄一、鈴木勉、 谷口綾子、太田尚孝
地理情報の解析と視覚化（理工系）	数理科学，都市計画，地理情報システムの専門家が計算幾何学，まちづくり，データマイニング，最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し，研究手法の社会への普及を図る。	大澤義明（代表者）山本芳嗣，吉瀬章子，繁野麻衣子，八森正泰，堤盛人，竹原浩太
持続可能な社会構築のための政策（複合系）	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を越えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループにおいては、環境経済学、都市計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う	奥島真一郎（代表者）、 石田東生、谷口守、岡本直久
エレクトロニクス産業の技術経営とビジネスモデル・イノベーション（理工系）	半導体産業を念頭に、1). 複雑化した生産システムの統合的オペレーション管理システムの構築・実装・効果の実証を目指す。次に、2). 1)と技術価値評価等を基幹技術として、バリュー・チェーンを革新する戦略的な製品/プロセスとサプライ・チェーンの統合的設計（＝ビジネスモデル・イノベーション）の研究へ展開し、事例の蓄積を進める。	住田潮（代表者） 有馬澄佳

<p>低成長時代における縮小型都市計画学の構築（理工系）</p>	<p>既存都市の縮小を図りながら、如何に持続可能かつ魅力的で快適な都市空間を創造するかに関する研究を行うものであり、社会工学域に所属する都市計画・環境科学関係の研究者により構成されている。</p>	<p>藤川昌樹（代表者）吉野邦彦、有田智一、渡辺俊、太田充、村上暁信、藤井さやか、松原康介、甲斐田直子</p>
<p>国際経済システム・政策協調の将来を考える（複合系）</p>	<p>国際経済の分野（例、経済統合、リスク・シェアリング、貧困問題）で、世界水準の研究活動を展開することにより、将来的には国内・アジア地域の一大研究拠点となることを目標とする</p>	<p>永易淳（代表者）、木島陽子、牛島光一</p>
<p>顧客志向ビジネス・イノベーションの研究（複合系）</p>	<p>数理科学・経営学・実践知識の融合により、顧客志向・従業員満足に基づくビジネス・イノベーションを実現する「つくば発サービス科学」を確立し、スマート社会に貢献する研究・人材育成を推進する。</p>	<p>張 勇兵（代表者）、高木英明、岡田幸彦、倉田久、生稲史彦</p>
<p>社会・経済システムの行動論的・心理学的アプローチ（複合系）</p>	<p>経済学のみならず、意思決定論、社会学、心理学の専門家が協力し、実験、調査、シミュレーションなどの多面的なアプローチにより経済エージェントの限定合理性が社会経済システムに及ぼす影響について解明する。</p>	<p>石井健一（代表者）、中村豊、橋本昭洋、上市秀雄</p>
<p>マネジメント・サイエンス、経済学、心理学にわたる共同学際研究（複合系）</p>	<p>社会工学域所属の5人の教員によるマネジメント・サイエンス（組織行動論・ファイナンス・マーケティング）および経済学（産業組織論）分野の共同学際研究</p>	<p>金澤雄一郎（代表者）、渡辺真一郎、庄司功、ステーブターンプル、近藤文代</p>
<p>組み合わせ理論の符号やセキュリティ問題への応用（理工系）</p>	<p>有限体や有限幾何を用いて、各種の組合せ的デザインの構成をし、符号、暗号・認証システム、あるいは実験のための計画などを作る研究をおこなう。</p>	<p>藤原良叔（代表者）ミヤオイン</p>

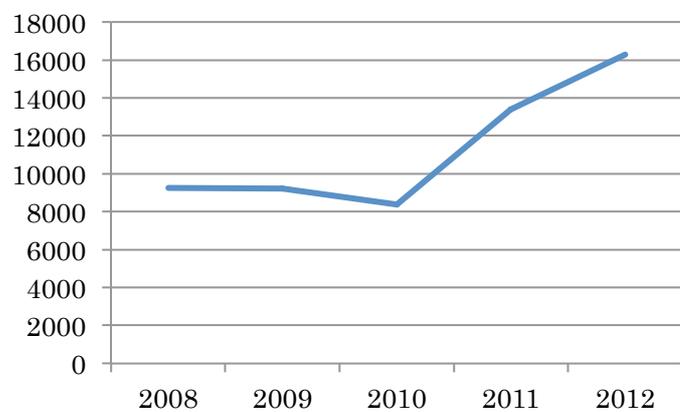
教員の過去5年間の論文数



教員の過去5年間の著書数



科研費合計額（単位：万円、直接+間接経費総額、代表者が社シマ教員）



## II. 教員一覽

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山英三	社会システム工学	力学系としてのゲームの研究
浅野哲	計量経済学	ミクロ経済学的分析手法の開発と応用
有田智一	都市計画、社会システム工学	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
石田東生	都市計画、運輸交通・サービス、道路輸送・サービス	公共交通の成立性、自動車保有と世帯交通活動、社会資本整備と合意形成
糸井川栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
大澤義明	都市計画、社会システム工学、経済政策（含経済事情）	都市計画、社会工学、地域科学
金澤雄一郎	データ科学・統計科学	離散選択モデル、共分散構造分析、ノンパラメトリック密度関数・回帰関数推定論、欠損値のある場合の統計的解析、生存時間解析
岸本一男	社会システム工学、応用数理、オペレーションズリサーチ	デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析
庄司功	統計科学、統計学、数値解析、近似法	ダイナミカルシステムモデルの統計的推論
鈴木勉	立地分析、計画リスク、リスク管理型都市公共サービス	立地・輸送におけるリスク分析、都市インフラストラクチャーの維持管理、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性
住田潮	経営工学、オペレーションズリサーチ、マーケティング、物的流通、生産工程、品質管理、情報工学一般	集合値関数の構造解析、情報システムの性能評価、応用確率モデルのビジネス分野への適用
高木英明	情報通信、応用確率過程、サービス・サイエンス	サービス科学、待ち行列理論とその応用、多重サービス高速通信ネットワークの性能評価

谷口守	運輸交通・サービス、環境工学一般、都市計画、土地利用、住居地域計画、住宅問題	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究、都市計画・交通計画・環境計画
張勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
中村豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
橋本昭洋	社会システム工学	社会システム分析、公共部門意思決定、評価・決定方法論、非画一的総合評価
藤川昌樹	建築史、都市計画、日本史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
藤原良叔	数学一般、情報工学基礎理論一般	周波数ホッピング系列、符号と暗号、Galois Field Package の開発、バランスド・アレイの構成法
繆瑩	応用数学、情報工学基礎理論一般	完全差集合族とそのレーダー配列への応用、デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、ベイジアンネットワークの遺伝子情報解析への適用、組合せデザイン理論を用いた情報通信・情報セキュリティのためのシークエンス構成問題
山本芳嗣	オペレーションズリサーチ、最適化	大域的最適化、組合せ最適化、アルゴリズムの開発
吉瀬章子	最適化・オペレーションズリサーチ	錐計画問題に対するアルゴリズムの開発と応用、相補性問題に対する数値的アルゴリズムの開発、データ解析、サービス科学における最適化モデルの適用

吉野邦彦	リモートセンシング一般、環境動態分析、環境影響評価（含放射生物学）、環境保全、環境工学一般、自然保護、水質汚濁、社会システム工学、農業土木	デジタル画像処理による植物群落草冠の立体構造のモデル化、生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、植物群集の分光反射特性に関する研究ーリモートセンシングを用いた詳細植生図作成のための基礎的研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析
渡邊真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人ー仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
生稲 史彦	イノベーション・マネジメント、技術マネジメント、製品開発論	コンテンツ産業及びサービス産業における開発マネジメント、技術経営、イノベーション・マネジメント
石井健一	社会学（含社会福祉関係）、社会システム工学、教育・社会系心理学	キャラクターの消費行動、海外における日本アニメの受容、インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動
大久保正勝	経済統計学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
大貫裕二	経済統計学	国民経済計算推計システムに関する研究、統計調査方法の改善に関する研究
岡田幸彦	会計学、経営学、商学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学研究教育のための“知の体系”の創造
岡本直久	交通計画、観光計画、交通工学・国土計画、社会資本投資効果分析	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
奥島真一郎	環境経済学、政策分析	分解分析手法の開発、モラルモチベーションと環境政策
木島陽子	開発経済学	発展途上国における貧困がいかにして削減されるかを現地調査により収集した家計データを用いて実証分析を行う
倉田久	経営学、経営工学、商学	サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究
佐藤(イリチュ)美佳	多次元データ解析、統計科学	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
繁野麻衣子	オペレーションズリサーチ、社会システム工学	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
高橋正文	派生証券評価、金融リスク管理	デリバティブズ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究

TURNBULL, Stephen John	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのマイクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的分析
堤盛人	土木計画学、応用空間統計学	不動産価格・賃料、空間的自己相関、空間統計学、空間計量経済学、応用都市経済モデル、社会資本ストック推計、プロジェクトファイナンス、建設関連業、無電中化
永易淳	国際金融、金融ファイナンス、計量経済	金融・為替政策の分析、経済・金融危機、金融資産価格変動の分析と予測、投資家の行動分析
八森正泰	数学一般、離散数学、組合せ論	トポロジ的組合せ論と組合せ論におけるトポロジ的手法、組合せ的構造に関する研究
原田信行	経済政策（含経済事情）、経済統計学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
村尾修	防災空間論、都市デザイン、都市復興計画	都市の被害想定と危険度、防災面から見た都市デザイン計画、建物の危険性評価
村上暁信	緑地計画学、都市環境計画	ランドスケープ計画、都市と農村の一体的整備手法、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、気候風土と景観
桃田朗	経済理論	人口問題を考慮したマクロ経済理論の構築、およびその応用可能性に関する研究
渡辺俊	建築工学一般、情報システム工学、CAD、CAM、都市計画	ポスト定住化社会における時空を超えたアクティビティの流動化実態に関する実証的研究、拡張現実技術を利用した実空間景観シミュレーションシステムの開発、東アジアの伝統的都市の再開発手法に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究
渡邊直樹	産業組織論、ゲーム理論	R&D、特許ライセンス、提携形成、交渉、流通などのマイクロ経済分析、動学的産業構造の理論・実証分析

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬澄佳	生産工学一般	QCDモデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法
石川竜一郎	経済理論	社会構造の認識の形成とその変遷、情報の社会的価値、家計内在配分に出産が与える影響
上市秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	犯罪不安に関する認知・感情プロセスのモデル化とその応用、慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法、意思決定における後悔の時間的变化と回復方法、進路意思決定における認知・感情過程のモデル化、逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究、環境ホルモンのリスク認知プロセス
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
近藤文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次POSデータの価格反応モデル分析
谷口綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク・コミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション
藤井さやか	都市計画、土地利用、住居地域計画、住宅問題	計画的住宅地の持続可能性に関する研究、ICTを活用したまちづくり・地域活性化に関する研究、市民・事業者による多様な都市計画提案を活用した持続可能な空間形成手法に関する研究、地区まちづくりルールを活用と運用実態に関する研究、住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
太田尚孝	都市計画、まちづくり	東日本大震災後の都市・地域の再生、セグリゲーション問題と解決方法、人口減少、需要縮小時代の都市と地域のあり方、日独の計画文化
甲斐田直子	環境経済、政策学	環境保全行動と社会システム分析、国際協力プロジェクト評価
川村大伸	経営工学，品質管理，応用統計学	製品およびサービスの品質評価，実験計画法，統計的工程管理
竹原浩太	金融工学、数理ファイナンス、応用確率解析	金融工学、数理ファイナンス、金融派生証券（デリバティブ）、ファイナンスにおける解析的／数値的手法、確率解析
松原康介	都市計画	中東・北アフリカ地域の都市保全
山本幸子	住宅計画、地域施設計画、農村計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

### III. 教員別の教育研究業績

氏名	秋山 英三	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論／社会工学における戦略的思考

大学院前期課程

応用ゲーム理論

◆ 指導学生数：

学類 1、社シス 5、社シマ 2

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究（C） 集団間の競争とゲームの構造がリーダーシップの進化に与える影響の分析（代表）
- 基盤研究（A） 帰納的ゲーム論：信念・知識の起源と進化、その限定性と行動・意志決定との相互関係（代表者：金子守）
- 日本学術振興会 二国間交流事業共同研究 フランスとの共同研究（CNRS） 状況認識と行動学習の相互作用に関する2国間比較（代表）
- 日本証券 財団研究調査助成金 資産価格バブルの発生メカニズムの実験経済学による分析（代表）

◆ 著書・論文等：

- Akiyama, E., "Evolutionary Leader Game and Social Hierarchy," SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, 6(2), 102-107, 2013. March, 2013
- Kaneko, M., Kline, J.J., Akiyama, E. and Ishikawa, R., "A Simulation Study of Learning a Structure Mike's Bike Commuting." In Proceedings of 2nd International Conference on Simulation and Modeling Methodologies, Technologies (SIMULTECH 2012), 208-217, 2012.

DOI: 10.5220/0004053602080217, <http://www.scitepress.org/DigitalLibrary/> 国際会議

- Akiyama, E., R. Ishikawa, M. Kaneko, and J. J. Kline (2013) "Inductive game theory: A simulation study of learning a social situation," in Hardy Hanappi (ed.), Game Theory Relaunch, Chapter 3, pp. 55-76, InTech. DOI: 10.5772/54181, <http://www.intechopen.com/books/game-theory-relaunched/inductive-game-theory-a-simulation-study-of-learning-a-social-situation> March, 2013

◆ 学会発表等：

- Akiyama, E. (with M. Kaneko, J. Kline, R. Ishikawa), "A Simulation Study of Learning: Mike's Bike Commuting" International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic & Related Topics, University of Tsukuba, Japan, August 27, 2012.
- Akiyama, E. (with M. Kaneko, J. Kline, R. Ishikawa), "A Simulation Study of Learning: Mike's Bike Commuting," Simultech 2012, Rome, Italy, July 28, 2012.
- Eizo Akiyama, "Effect of individual irrationality and lack of common knowledge of rationality", Heterogeneity and Networks in Financial Markets, Centre de la Vieille Charite, Marseille, France, March 21, 2013.
- 秋山英三, "被験者実験による資産市場の分析," 日本オペレーションズ・リサーチ学会 第17回サービスサイエンス研究部会, Japan Advanced Institute of Science and Technology Tokyo Satellite, Japan, October 19, 2012.
- Eizo Akiyama, "Individual irrationality and lack of common knowledge of rationality in experimental asset markets", Summer Workshop on Economic Theory (SWET 2012), Kushiro Public University of Economics, August 11, 2012.

◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
全学 キャリア支援担当教員会議 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
社会工学関連 三専攻 就職委員会 委員長  
社会工学類 就職委員会 委員長

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会
  - International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic, & Related Topics (August

27-30 2012, Tsukuba), Program Committee Member

- ネットワークが創発する知能研究会 2012 プログラム委員, 2012年8月29日(水) - 8月31日(金), 立正大学.
- JAWS2012 (Joint Agent Workshops and Symposium 2012) プログラム委員, 2012年10月24日(水) - 26日(金), ヤマハリゾートつま恋

◆ 模擬講義

- つくば秀英高等学校 高大連携 模擬授業, 2012年6月2日
- 麗澤瑞浪高校 高大連携 模擬授業, 2012年8月8日

氏名	浅野 哲	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学（専任），経営・政策科学（専任）		
担当学類	社会工学類（専任），社会学類（兼担）		
研究分野	計量経済学、ミクロ計量経済学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類

社会工学類、社会学類 「計量経済学」

社会工学類 「線形代数 II」

大学院

社会システム工学専攻、経済学専攻 「計量経済学」

経営・政策科学専攻 「ファイナンス：理論と実践」、「ビジネス倫理」

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 3名

社会システム工学 1名

経営・政策科学 1名

社会システム・マネジメント 1名

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

家計規模の経済の推定 科研費一般 c

### ◆ 著書・論文等：

### ◆ 学会発表等：

### ◆ その他：

## 3. 学内運営

### ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

経営・政策科学専攻長

### ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

経営・政策科学専攻長

## 4. 学外の社会貢献

### ◆ 日本経済学会代議員

氏名	有田 智一	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	産業集積，都市・地域政策，都市計画制度		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

社会工学類：都市と地域の経営行政論、住まいと居住環境、都市計画マスタープラン策定実習、建築関連法規（世話人教員）

社会システム工学専攻：国際交流ワークショップⅠ、国際交流ワークショップⅡ

経営政策科学専攻：行政と政策決定、都市地域経営とまちづくり、都市開発プロジェクトマネジメント、住宅・建築・まちづくりに関する今日的課題と対策（世話人教員）

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 2名 社会システム工学専攻 8名

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金基盤研究 B「都市プランナーの職能・専門性の変容と再構築に関する国際比較研究」

科学研究費補助金 基盤研究 C「協調・契約型都市再生手法に関する日独比較研究」、(研究分担者)

### ◆ 著書・論文等：

太田尚孝・Susanne Elfferding・大村謙二郎・有田智一・藤井さやか(2012)、「ドイツの都市計画における国際建築展（IBA）の役割と存在意義に関する研究 - IBA の歴史的発展と現代的位置づけに注目して -」都市計画論文集 47-3、pp. 679-684

### ◆ 学会発表等：

### ◆ その他：

（司会進行）筑波大学による茨城県北及び鹿行震災復興シンポジウム「知の貢献，安心安全な生活空間を創出する -鹿行震災復興シンポジウム」司会進行、日時：2012年10月14日（日） 13:30-16:30

(パネリスト) 都市計画学会ワークショップ「期待される都市計画専門技術者(主として民間プランナー)の像と人材育成」、2012年11月10日(土)13:00~15:00、会場:弘前大学総合教育棟405講義室、主催:都市計画学会都市計画CPD運営WG

(講演) “Japanese Urban Planning in the 21st Century”, January 8, 2013, 12:30 p.m. SPUR Urban Center, San Francisco

(講演会講師)「狭あい道路整備と密集市街地更新の計画的推進」地域科学研究会、2013年3月26日、剛堂会館

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:  
産学リエゾン共同研究センター運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):  
大学院3専攻合同入試実施委員会委員  
社会工学類予算委員  
社会工学類1年生クラス担任

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 土浦市行財政改革推進委員会委員長
- ◆ 土浦市都市計画マスタープラン策定委員会委員長
- ◆ 土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会委員
- ◆ 取手市国土交通省所管公共事業再評価委員会委員長
- ◆ 日立市住生活基本計画策定委員会委員長
- ◆ 神栖市総合計画審議会都市環境分科会長
- ◆ 江戸川区都市計画審議会委員
- ◆ 財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員
- ◆ 日本建築学会法制委員会委員
- ◆ 日本建築学会協議調整型ルール検討小委員会委員
- ◆ 日本建築学会建築専門家の行政訴訟参加に関する研究小委員会委員
- ◆ 都市住宅学会関東支部常議員
- ◆ 都市住宅学会学術委員会委員
- ◆ 都市住宅学会学会賞委員会委員

氏名	有馬 澄佳	職名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任）， 経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	生産システム工学、ビジネスモデル・イノベーション（技術経営）		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類

プログラミング実習、生産・品質管理、マネジメント実習、経営工学基礎演習、  
問題発見と解決、経営の科学 III

大学院博士前期課程

オペレーション管理

社会システム工学特別演習 I および II， 社会システム工学特別研究

経営・政策科学特別演習 I および II， 経営・政策科学特別研究

社会システム・マネジメント特別演習 I および II（後期）

社会システム・マネジメント特別研究（後期）

### ◆ 指導学生数：

学類： 3名

大学院博士前期課程（研究生）： 5（+1） 名

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

JST・研究成果展開プログラム A-STEP（探索タイプ）「半導体・液晶製造の良品スループット向上とコスト低減の両立を目指して Q-time 制約の遵守と装置の生産性向上とを同時に実現する実時間最適オペレーション管理手法の研究」(170万円/8ヵ月，2011年12月～2012年7月)（代表）(独) 科学技術振興機構

JST・復興促進プログラム（A-STEP）シーズ顕在化タイプ「QCDRモデルに基づいて革新的な総合設備効率の向上と生産期間の短縮を実現する工場・設備の運用管理システム」(800万円/1年，2012年10月～2013年9月)（研究責任者）

産学連携推進プロジェクト（知財活用）(H23年12月～H24年3月，84万円)

産学連携推進プロジェクト（共同研究立ち上げ）(H24年4月～H25年3月，200万円(Tyecin(株)：100万円，ILC:100万円))

◆ 著書・論文等：

A. KOBAYASHI, S. K. Ming, S. ARIMA "Novel dispatching rule for re-entrant flow control in Q-time constraints processes," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2012, MC-P-60(pp.1-4), Oct. 15-17<sup>th</sup>, 2012.

N. Toyoshima, T. Daiku, S. Arima, "Optimal Control of Engineering Operations on Production Tools in Semiconductor Manufacturing," Proceedings of IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2012, MC-P-61(pp.1-4), Oct. 15-17<sup>th</sup>, 2012.

◆ 学会発表等：

A. KOBAYASHI, S. K. Ming, S. ARIMA "Novel dispatching rule for re-entrant flow control in Q-time constraints processes," IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2012, MC-P-60, Oct. 16, 2012.

N. Toyoshima, T. Daiku, S. Arima, "Optimal Control of Engineering Operations on Production Tools in Semiconductor Manufacturing," IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 2012, MC-P-61, Oct. 16, 2012.

◆ その他：

国際特願 PCT/JP2012/84031(PCT 加盟国 145 か国 (日本除く)) 「最適指標生成装置、最適指標生成方法、最適指標生成プログラム及び最適指標生成サーバ」(2012年12月28日出願)(発明者：畠(有馬)澄佳、山崎雄大、出願人：筑波大学)

※国際調査報告・見解書において、請求項の全33項について、新規性・進歩性・産業上の利用可能性「有」の良好な審査結果を得た。

国際特願(台湾)01151072, 「最適指標生成装置、最適指標生成方法、最適指標生成プログラム及び最適指標生成サーバ」(2012年12月28日出願)(発明者：畠(有馬)澄佳、山崎雄大、出願人：筑波大学)

特願2012-146687「最適指標生成装置、最適指標生成方法、最適指標生成プログラム及び最適指標生成サーバ」(2012年6月29日出願)  
(発明者：畠(有馬)澄佳、山崎雄大、出願人：筑波大学)

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学・ハラスメント相談員（シス情）

全学・メンタルヘルス学生支援チーム（シス情）

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 学類：広報委員会、学生相談室、
  - 大学院：学生相談室、新入生オリエンテーション委員
  - 筑波大学産学連携推進プロジェクト（アントレプレナーシップおよび知的財産に関する教育支援プロジェクト）「日本の未来像に根ざした戦略的な知的財産・情報・人材のマネジメントのための実践的なポストMOT教育」（経営・政策科学専攻、実施代表者）（50万円/年 ×3年度(H22-24)）

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ AEC/APC symposium Asia プログラム委員会 副委員長
- ◆ JEITA 半導体生産部会 DFM-PM 小委員会 客員
- ◆ 講演会：有馬澄佳 「半導体産業における成功と失敗、そして展望」，リソグラフィ戦略会議 2012，DNP 創発の杜（箱根研修センター），2012/04/15-/16.

氏名	生稲 史彦	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任）， 経営・政策科学専攻（専任） コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	MOT（Management of Technology）、イノベーション・マネジメント、製品（サービス）開発マネジメント、コンテンツ産業における企業行動、ITサービスの開発・運営マネジメント		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 マーケティング、マネジメント実習
  - 大学院 マーケティング、経営戦略
- ◆ 指導学生数：
  - 学類 3名
  - 大学院 4名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費補助金（若手研究(B)）「アジア圏におけるデジタルコンテンツ市場の成立可能性(課題番号：23730363)」（研究代表者）
  - グローバルビジネスリサーチセンター オンライン・ソフトウェア研究会幹事
  - グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツビジネス研究会幹事
  - グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事
- ◆ 著書・論文等：
  - The Evolution of the Home Video Game Software Industry in Japan: An Empirical Study on Factors in the Industry's Evolution. *Evolutionary and Institutional Economics Review*, 9(1), 37-50.
  - 「開發生産性のディレンマの先にあるもの—産業レベル分析の限界と課題—」，2012年8月。（査読付きプロシーディング）
  - 「デジタル化時代のイノベーションへの対応—日本のゲーム分野の事例—」第8回日本型クリエイティブ・サービス研究会，2012年11月24日。
  - 「デジタル化時代のイノベーション・パターン—ゲームソフト産業の事例から—」，2012年12月。（カンファレンス・ペーパー）

◆ 学会発表等：

「開発生産性のディレンマの先にあるもの—産業レベル分析の限界と課題—」一橋大学イノベーション研究センター『IIR サマースクール 2012』，2012年8月21日。

「開発生産性のディレンマ—日本のゲーム産業の競争力—」IASM 国際戦略経営研究会理論実践研究会 10月定例研究会，2012年10月24日。「デジタル化時代のイノベーション・パターン—ゲームソフト産業の事例から—」日本経済新聞出版社第26回企業行動コンファレンス 2012，2012年12月9日。

◆ その他：

第1回 GBRC 三菱地所経営図書出版助成事業 出版助成

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

(なし)

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム情報研究科 修士論文委員

社会システム情報研究科 施設委員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 平成24年度経済産業省「知的財産権ワーキング・グループ等侵害対策強化事業(知的財産権侵害対策のための海外展開情報基盤調査)」委員。(2012年12月から2013年2月まで)

◆ 東京大学 経済学部 非常勤講師 (情報経営論)

◆ 文京学院大学 経営学部 非常勤講師 (コンテンツ・情報産業史)

氏名	石井 健一	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任），比較文化学類（兼担）		
研究分野	社会心理学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
文化行動論／社会調査実習  
社会・市場調査演習
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 3人  
経営政策科学専攻 2人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費（基盤研究B）「日中の相互国家イメージと「国家ブランディング」の可能性—中国と日本での実証研究」（研究代表者）  
KDDI 財団 調査研究助成「SNS利用の比較文化的研究」（代表者）
- ◆ 著書・論文等：  
査読付き論文  
Nationalism and preferences for domestic and foreign animation programmes in China. *International Communication Gazette*, March 2013, vol. 75 no. 2 225-245.  
Nationalism, Materialism, and Preferences for the US and East Asian Countries in Japan, *Electronic Journal of Contemporary Japanese Studies*, Volume 12, Issue 1.
- ◆ 学会発表等：  
日本社会心理学会「国のイメージと原産地効果～国家ブランディングの効果測定」渡辺聡氏と共同発表  
日中社会学会・北京日本学研究中心共催 国際交流基金知的交流会議助成プログラム「グローバリゼーションインパクトの日中比較」の招待講演「外国イメージとナショナリズム意識の日韓比較」
- ◆ その他：

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
社会工学類 FD 委員／広報委員

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 日中社会学会理事、Mobile Media & Communication (SAGE publications) Editorial Board
- ◆ 論文査読 Journalism and Mass Communication Quarterly / Asian Journal of Communication / Mobile Media & Communication / 情報通信政策レビュー / 東京大学情報学環紀要 / 次世代人文社会研究 / 心理学研究 / Behavior and Information Technology / Journal of Broadcasting and Electronic Media

氏名	石川 竜一郎	職名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	ゲーム理論，情報経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 微積分基礎／情報経済学／経済学入門 II／プログラミング実習
  - 大学院 ミクロエコノミクス
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 2名 社会システム・マネジメント専攻 2名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費
    - 若手研究 (B) 「意思決定における高次認識の役割：帰納的アプローチ」(代表)
    - 基盤研究 (A) 「帰納的ゲーム理論：信念・知識の起源と進化、その限定性と意思決定・行動との相互関連」(分担)
  - 共同研究プロジェクト
    - 二国間交流事業共同研究 (日仏) フランス国立科学研究センター (CNRS) 「状況認識と行動学習の相互作用に関する2国間比較」(分担)
    - 二国間交流事業共同研究 (日仏) フランス国立研究機構 (ANR) 「エージェントシミュレーションに関する認識論的基礎付け」(分担)
  - 研究助成金
    - 公益財団法人稲盛財団研究助成金「時価会計制度がもたらす金融危機波及に関する研究」(代表)
    - 石井記念証券研究振興財団研究助成金「時価会計制度がもたらす金融危機波及に関する研究」(代表)
    - 日本経済研究奨励財団奨励金「資産価格バブル発生メカニズムの解明」(代表)
    - 日本証券財団「資産価格バブルの発生メカニズムの実験経済学による分析」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
  - Tomoki Fujii and Ryuichiro Ishikawa, (2013) “Arrow-Fisher-Hanemann-Henry and Dixit-Pindyck option values under strategic interactions,” *Strategic Behavior*

*and the Environment*, Vol. 3, pp.169-183.

- Eizo Akiyama, Ryuichiro Ishikawa, Mamoru Kaneko, and Jeffery Jude Kline, “Inductive game theory: A simulation study of learning a social situation,” in Hardy Hanappi (ed.) *Game Theory Relunched*, Chapter 3, pp. 55-76, InTech, 2013 年.
- Tomoki Fujii and Ryuichiro Ishikawa, “A note on separability and intra-household resource allocation in a collective household model,” *Review of Economics of the Household*, Vol. 11(1), 143-149, 2013 年.
- Tomoki Fujii and Ryuichiro Ishikawa, “Quasi-option value under strategic interactions,” *Resource and Energy Economics*, Vol. 34, pp. 36-54, 2012 年.

◆ 学会発表等 :

- Eizo Akiyama, Nobuyuki Hanaki and Ryuichiro Ishikawa “Effect of uncertainty about others’ rationality in experimental asset markets: An experimental analysis,” presented at *2013 Asia-Pacific ESA Conference*, Tokyo, February 2013.
- Takanori Ishikawa and Ryuichiro Ishikawa, (2012) “Interbank market contagion by mark-to-market accounting,” presented at *24<sup>th</sup> Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues*, Hawaii, USA, October 2012.
- Koji Hasebe and Ryuichiro Ishikawa, “Belief revision for inductive game theory,” presented at *International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic, & Related Topics*, University of Tsukuba, August 2012.

◆ その他 :

- 査読付き国際学会会議録
  - Takanori Ishikawa and Ryuichiro Ishikawa, (2012) “Interbank market contagion by mark-to-market accounting,” *24<sup>th</sup> Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues*, 12 pages (CD-ROM), 2012 年.
  - Mamoru Kaneko, Jeffrey Jude Kline, Eizo Akiyama, and Ryuichiro Ishikawa, “A Simulation Study of Learning a Structure Mike’s Bike Commuting,” *Proceedings of 2nd International Conference on Simulation and Modeling Methodologies, Technologies* (SIMULTECH 2012), pp. 208-217, 2012 年.
- ディスカッションペーパー
  - Yoshiaki Hoshino, Ryuichiro Ishikawa, and Akira Yamazaki “Unequal distribution of powers in a Wicksellian transfer game,” Discussion Paper Series No. 24, Graduate School of Economics and School of Economics, Meisei University, 2013.
  - Eizo Akiyama, Nobuyuki Hanaki, and Ryuichiro Ishikawa “Effect of

uncertainty about others' rationality in experimental asset markets: An experimental analysis," AMSE-DP 2012-34, 2012.

- 一般向け解説
  - 連載「ケースで学ぶビジネス・エコノミクス入門」(1) - (5)、経済セミナー 4・5月号、6・7月号、8・9月号、12・1月号、2・3月号、日本評論社、2012-13年.

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
  - 筑波大学オープンキャンパス，社会経済システム専攻案内、2013年3月.
  - 筑波大学オープンキャンパス，模擬講義、2012年7月.
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 社会工学関連3専攻改組検討委員会
  - 修士論文委員会
  - 4年次クラス担任

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 研究会オーガナイザー
  - 2<sup>nd</sup> International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic, & Related Topics, 2013年，運営委員.
  - International Workshop on Game Theory, Epistemic Logic, & Related Topics, 2012年，運営委員.

氏名	糸井川 栄一	職名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム・マネジメント専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム工学専攻（兼担）， 経営・政策科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	都市リスク管理, 地域安全計画		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習／都市計画実習／都市防災計画／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成／都市計画事例講義および演習

大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／リスク工学専攻前期課程 6人／リスク工学専攻後期課程 2人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 基盤研究(C) 「地震火災時の人的被害を考慮した消防運用戦略に関する数理的研究」（代表）

◆ 著書・論文等：

- (1) 山田美由紀・糸井川栄一・佐藤隆雄(2012)：「岩手県沿岸地域における住宅被災世帯推定のための基礎的研究－東北地方太平洋沖地震被災地における小地域レベルの居住関係のクロスデータの推計－」，日本災害復興学会論文集，No. 2，pp. 30-39
- (2) 山田美由紀・糸井川栄一・佐藤隆雄(2012)：「阪神・淡路大震災被災地の復興後の居住構造－居住関係マイクロデータの推計手法と神戸市における居住構造分析－」，日本建築学会計画系論文集，第77巻，第677号，pp. 1663-1672
- (3) 吉森和城・糸井川栄一・梅本通孝(2012)：「マンション住民の地震発生後の避難行動とその要因に関する研究－平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震における仙台市マンション住民を事例として－」，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 18，pp. 199-209
- (4) 茂木友里加・糸井川栄一・梅本通孝(2012)：「津波避難施設としての寺院の利用可能性に関する研究－平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震における津波被災地域を対象として－」，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 18，pp. 177-187
- (5) 梅本通孝・糸井川栄一・小嶋崇央(2012)：「液状化被災地における転居/居住継続に関する要因分析－茨城県潮来市日の出地区を対象として－」，地域安全学会論文集，地域安全学会，No. 18，pp. 483-493

(6)天笠雅章・糸井川栄一・梅本通孝(2013)：「津波起因火災における消火活動実態と消火活動困難性に関する研究－2011年東北地方太平洋沖地震における被災地域を対象として－」，火災学会論文集，日本火災学会，第62巻 第2・3号，pp.1-16

◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績

(1)天笠雅章・糸井川 栄一・梅本通孝(2012)：「東日本大震災における津波火災の消火活動実態」，平成24年度日本火災学会研究発表会概要集，日本火災学会，pp.120-123

(2)幸晋之介・糸井川栄一・梅本通孝(2012)：「大規模建築物の自衛消防活動におけるヒューマンエラーの要因分析」，安全工学シンポジウム2012(日本学術会議総合工学委員会主催)，2012年7月5日

(3)糸井川栄一・吉森和城・梅本通孝(2012)：「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震におけるマンション住民の地震発生後の避難行動－仙台市マンション住民を事例として－」，地域安全学会東日本大震災特別論文集，地域安全学会，No.1，pp.9-12

(4)小嶋崇央・梅本通孝・糸井川栄一(2012)，「液状化被災地における被害と居住継続との課題－茨城県潮来市日の出地区を対象として」，地域安全学会東日本大震災特別論文集，地域安全学会，No.1，pp.91-94

(5)糸井川栄一(2012)：「被災地の被害状況と地域的特徴」，基礎工，Vol.40，No.8，総合土木研究所，pp.35-38

(6)糸井川栄一(2012)：「避難とは何か」，日本建築学会大会(東海)、防火部門パネルディスカッション資料，pp.1-4

(7)陳雅姣・糸井川栄一・梅本通孝(2012)：「家庭防災力に対する継続した防災教育の蓄積効果」，地域安全学会梗概集，地域安全学会，No.31，pp.3-6

◆ その他： ※受賞、特許等などの実績

なし

### 3. 学内運営

◆ 系や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系研究者倫理検討委員会／システム情報系技術職員委員会

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：

社会工学類 施設委員会

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員長／GP アクション委員会委員／大塚キャンパス対策委員会委員／施設委員会委員長／インターンシップ担当

### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動(役員/委員、論文査読等)、学外から委嘱された委員、兼業など。

(1)地域安全学会 理事／副会長／査読

(2)日本建築学会 防火本委員会 委員／地震火災総合対策小委員会委員・幹事／都市防

災マネジメント小委員会委員・幹事／査読

- (3)国土交通省 「建築防火基準委員会」委員(2011～2)
- (4)独立行政法人建築研究所 客員研究員(2008～)
- (5)損害保険料率算出機構 「地震火災の延焼危険評価手法の高度化」委員会委員(2011～)
- (6)東京都都市整備局 「東京都地域危険度測定調査委員会」委員(2010～)／「避難場所調査検討委員会」委員(2010～)
- (7)東京消防庁 「第20期火災予防審議会」委員(2011～2012)
- (8)茨城県 「茨城県地域防災計画改定委員会」委員(2011～2012)
- (9)土浦市 「土浦市消防本部消防拠点施設整備事業基本実施設計業務プロポーザル選定委員会委員」委員長(2012)
- (10)神栖市 「神栖市総合計画審議会」委員長(2012)
- (11)神栖市 「神栖市地域防災計画策定にかかる専門委員会」委員
- (12)公益財団法人 東京防災救急協会 調査研究専門委員(2004～)
- (13)国際航業株式会社 「被害想定を踏まえた震災時の同時多発火災等への対応力に関する調査研究委員会」委員(2012)

氏名	佐藤(イリチュ) 美佳	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	リスク工学専攻 (専任), 社会システム・マネジメント専攻 (兼担)		
専攻 (博士前期課程)	リスク工学専攻 (専任), 社会システム工学専攻 (兼担), 経営・政策科学専攻 (兼担)		
担当学類	社会工学類 (専任)		
研究分野	データマイニング, 統計科学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類

数理統計学／統計 I／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成 (分担)／卒業研究

大学院前期課程

データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/リスク工学基礎 (分担)/リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習 (分担)/リスク工学概論 (分担)/リスク工学インターンシップ (分担)/社会システム工学特別演習 I (分担)/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/インターンシップ (社会システム工学) /インターンシップ (MBA) (分担)/インターンシップ (MPP) (分担)/特定課題研究 (分担)/経営・政策科学特別演習 I (分担)/ 経営・政策科学特別演習 II (分担)/経営・政策科学特別研究

大学院後期課程

リスク工学後期特別演習 (分担)/リスク工学後期特別研究/リスク・ケーススタディ研究 (分担)/リスク工学後期プロジェクト研究/社会システム・マネジメント特別研究/社会システム・マネジメント特別演習 I (分担)/ 社会システム・マネジメント特別演習 II (分担)

### ◆ 指導学生数：

社会工学類：5人

リスク工学専攻博士前期課程：1人

短期留学生：1人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次シンボリックデータに対するクラスターワイズ手法の開発とその応用」(代表)

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A))

「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」(分担)

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))

「高次元データの理論と方法論の総合的研究」(分担)

筑波大学大学院システム情報工学研究科教育研究費重点配分「ソフトコンピューティング」  
(分担)

◆ 著書・論文等：

M. Sato-Ilic, On Fuzzy Clustering based Correlation, *Procedia Computer Sciences*, Elsevier, Vol. 12, pp. 230-235, 2012.

T. Kuwata, M. Sato-Ilic, L.C. Jain, A Learning based Self-Organized Additive Fuzzy Clustering Method and Its Application for EEG Data, *International Journal of Knowledge-Based and Intelligent Engineering Systems*, IOS Press (Netherland), Vol. 16, pp. 69-78, 2012.

R. Chiba, T. Furutani, M. Sato-Ilic, A Structural Analysis based on Similarity between Fuzzy Clusters and its Application to Evaluation Data, *Intelligent Decision Technologies*, Springer-Verlag, Berlin Heidelberg (Germany), J. Watada, T. Watanabe, G. Phillips-Wren, R.J. Howlett, L.C. Jain, eds., Vol. 1, pp. 77-87, 2012.

R. Chiba, M. Sato-Ilic, Analysis of Web Survey Data based on Similarity of Fuzzy Clusters, *Procedia Computer Sciences*, Elsevier, Vol. 12, pp. 224-229, 2012.

M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering Model based on Operators on a Product Space of Linear Spaces, 20th International Conference on Computational Statistics, pp. 745-756, 2012.

M. Sato-Ilic, Structural Classification based Correlation and its Application to Principal Component Analysis for High-Dimension

Low-Sample Size Data, IEEE World Congress on Computational Intelligence, pp. 981-988, 2012. DOI: 10.1109/FUZZ-IEEE.2012.

M. Sato-Ilic, Two Covariances Harnessing Fuzzy Clustering for Discrimination of Microarray Data, the Ninth International Meeting on Computational Intelligence Methods for Bioinformatics and Biostatistics, ISBN 978-88-906437-1-2, 2012.

◆ 学会発表等 :

M. Sato-Ilic, Cluster-based Scaling for Symbolic Data and its Applications in Decision Making, Keynote speech at 4th International Conference on Intelligent Decision Technologies (KES-IDT2012), 2012, (基調講演 (Keynote speech))

M. Sato-Ilic, Fuzzy Cluster based Principal Component Analysis for High-Dimension and Low-Sample Size Data, 2012 年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp.124, 2012.

M. Sato-Ilic, Classification of High-Dimension Low-Sample Size Data, 第 28 回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, pp. 119-120, 2012.

千葉龍之介, 佐藤美佳, 評価データのクラスタリングに基づくクラスター間類似度とその応用, 日本分類学会第 31 回大会, 2013

◆ その他 :

受賞

Best Theoretical Paper Award , M. Sato-Ilic, On Fuzzy Clustering Based Correlation, Procedia Computer Sciences, Elsevier, Vol. 12, pp. 230-235, Washington, D. C. , USA, 2012.

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

システム情報工学研究科留学生委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻：広報委員会委員  
大学院 GP 達成度評価委員会委員  
施設委員会委員  
学年担当（主M1担当）

学類： クラス担任（4年生）

#### 4. 学外の社会貢献

(1) 学外講義等：

広島大学大学院理学研究科数学専攻非常勤講師（「クラスター分析」2単位）

Invited Professor Position, University of Paris (UPMC), (Research and Teach of data mining and machine learning techniques), Paris, France

(2) 海外学術誌編集業務：

Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms,  
Published by Inderscience Publishers, UK

Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies

Associate Editor of Neurocomputing

Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK

Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems

(3) ISI, IEEE 等役員・委員：

Council of International Association for Statistical Computing (a Section of the International Statistical Institute)

Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society

IEEE Senior Member

Co-chair in the Complex Adaptive Systems 2012

Co-Chair of Program Committee of the IEEE WCCI2014

Member of the CIS IEEE Press Liaison Committee, 2012

Member of IEEE CIS Pioneer Award Sub-Committee, 2012

Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee

(4) その他

統計関連学会連合大会運営委員会副委員長

日本分類学会幹事

日本知能情報ファジィ学会誌編集委員会委員

論文査読:

Advances and Applications in Statistics

Advances in Data Analysis and Classification

Applied Soft Computing

Behaviormetrika

Computational Statistics

European Journal of Operational Research

Fuzzy Sets and Systems

IEEE Systems, Man and Cybernetics

IEEE Transactions on Fuzzy Systems  
IEEE Transactions on Industrial Electronics  
IEICE Transaction on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences  
Information Sciences  
International Journal of Applied Soft Computing  
International Journal of Approximate Reasoning  
International Journal of General Systems - Intelligent Systems Design  
International Journal of Knowledge-based Intelligent Engineering Systems  
International Journal of Uncertainty, Fuzziness and Knowledge-Based Systems  
Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics  
Journal of Classification  
Journal of Information Processing  
Journal of Information Science  
Journal of Institute of Electronics, Information and Communication Engineers  
Journal of Intelligent and Fuzzy Systems  
Journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics  
Journal of the Japan Society for Fuzzy Theory and Systems  
Journal of the Japanese Society of Computational Statistics  
Journal of the Operations Research Society of Japan  
Neural Networks  
Neurocomputing  
Systems, Control and Information

書籍査読

Springer, Germany

John Wiley & Sons

その他、各種国際会議論文査読多数

氏名	上市 秀雄	職名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	意思決定論，認知心理学，社会心理学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類：経済行動論／社会経済システム情報実習／社会工学における戦略的思考：理論，実験，および演習

大学院：消費者心理分析

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 1名

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費補助金基盤研究（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（研究分担者）

2. 科学研究費補助金基盤研究（C）「慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法」（研究分担者）

### ◆ 著書・論文等：

1. 上市秀雄（2012）. リスク認知の個人差（4章） 中谷内一也（編著）「リスクの社会心理学：人間の理解と信頼の構築に向けて」 有斐閣，pp. 69-85.

2. 上市秀雄（2013）. どのようにリスクを伝えればよいか：よりよいリスクコミュニケーションのために必要なこと， 建築雑誌，128，12-13.

### ◆ 学会発表等：

1. 上市秀雄・通谷研志（2012）. 後悔を生かすためには何が必要か？ 日本心理学会第76回大会発表論文集，829.

2. 上市秀雄（2012） がん心理学（1）－意思決定研究の現場への応用について考える－（話題提供者），WS046.

3. 今井葉子・角谷拓・上市秀雄・高村典子（2013）. 生態系サービスの認知が保全の行動意図におよぼす影響：社会心理学からのアプローチ. 日本生態学会第60回全国大会.

### ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
筑波大学オープンキャンパス模擬講義
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
SSE:戦略企画室  
社会工学類:就職委員，クラス担任（2年）

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 論文査読：認知心理学研究

氏名	梅本 通孝	職名	講師
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム・マネジメント専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム工学専攻（兼担）， 経営・政策科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：社会工学実習／微積分Ⅱ／都市計画事例講義および実習／都市地域経済学演習／都市防災計画／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 若手研究 (B)「市民の災害リスク認知の地理情報化手法の開発と減災対策の実効性向上のための応用」(代表)
- ◆ 著書・論文等：  
陳雅ウン，糸井川栄一，梅本通孝：学校防災教育の地域への効果波及に関する研究，都市計画ト文集，Vol. 48，No. 1，2013。（掲載決定・印刷中）  
梅本通孝，糸井川栄一，小嶋崇央：液状化被災地における転居・居住継続に関する要因分析—茨城県潮来市日の出地区を対象として—，地域安全学会論文集，No. 18，pp. 483-493，2012  
茂木友里加，糸井川栄一，梅本通孝：津波避難施設としての寺院の利用可能性に関する研究—平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震における津波被災地を対象として—，地域安全学会論文集，No. 18，pp. 177-187，2012.  
吉森和城，糸井川栄一，梅本通孝：マンション住民の地震発生後の避難行動とその要因に関する研究—平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震における仙台市マンション住民を対象として—，地域安全学会論文集 No. 18，pp. 199-209，2012.  
天笠雅章，糸井川栄一，梅本通孝：津波起因火災における消火活動実態と消火活動困難性に関する研究—2011 年東北地方太平洋沖地震における被災地域を対象として—，日本火災学会論文集，Vol. 62，No. 2・3，pp. 33-48，2012.
- ◆ 学会発表等：  
梅本通孝：東日本大震災津波避難からの知見，日本建築学会大会(東海)，防火部門パネルディスカッション資料「広域避難計画を再考する」，pp. 21-26，2012.

- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
全学 学生生活支援室 室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
リスク工学専攻 GP 実施委員会  
リスク工学専攻 就職委員会 委員長  
リスク工学専攻 広報委員会 委員  
リスク工学専攻 予算委員会 委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動  
日本自然災害学会編集委員会 委員  
地域安全学会論文集 査読者  
日本建築学会技術報告集 査読者  
日本地震工学会論文集 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員  
茨城県稲敷市都市計画審議会 会長  
茨城県稲敷市市街地液状化対策事業計画策定検討委員会 委員
- ◆ 講演等  
北茨城市立関南小学校避難訓練防災教室 講演・指導，2013. 2.  
巨大地震による複合災害の統合的リスクマネジメント筑波大学-茨城県連絡会 講演，  
2013. 2.  
つくば市立並木中学校つくばスタイル科防災授業 講演・指導，2013. 12.  
神栖市立波崎小学校学校・地域合同避難訓練防災講演会 講演，2012. 11.  
神栖市立深芝小学校実践的防災教育スペシャルデー防災講演会 講演，2012. 11.  
平成 24 年度特別支援学校自立教科等担当教員(理療)講習会，講演，2012. 7.

氏名	大久保 正勝	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習  
大学院 マクロ経済学、特定課題研究
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 2人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 若手研究（B）「選好の異質性と消費保険のマイクロデータ分析」（研究代表者）  
システム情報工学研究科 リサーチグループ（学域）「マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
全学委員会：外国語センター学類代表
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
大学院3専攻：カリキュラム委員  
社会工学類：広報委員

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携  
茨城県立下館第一高等学校 出張講義

氏名	大澤 義明	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）， 環境科学専攻（兼担），リスク工学専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	社会工学，都市計画，地域科学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 微積分 I，都市解析，都市構造論，都市計画マスタープラン策定実習，都市計画事例講義および実習，つくばの景観を考える，都市・地域・環境を探る II（総合科目）  
大学院 都市計画における課題と方法，都市地域解析学（社会システム工学，経営政策科学），立地計画論（環境科学）
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 2人  
社会システム工学専攻 5人  
環境科学専攻 3人  
社会システム・マネジメント専攻 3人

## 2. 研究

- ◆ 研究費・学部資金等（代表者）：  
[1] 縮小時代における公共施設整備見直し政策の理論化．科学研究費補助金・基盤研究B．  
[2] 世代間不公平解消のための投票制度改革．科学研究費補助金・萌芽研究．  
[3] 筑波大学革新的研究等支援プログラム，学生協働・地場連携による筑波大学キャンパス・リノベーションーグリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの融合ー．  
[4] 筑波大学東日本大震災復興・再生支援プログラム，若い世代のための被災地出張講義プロジェクト．
- ◆ 著書・論文等：  
[1]大澤義明，松丸仁，南博，小林隆史(2012)：市町村総合計画における計画人口の過大性ー北関東3県を対象としてー市町村補助金制度の見直しに関する実態調査．日本計画行政学会，pp. 51-58.
- ◆ 学会発表等：  
[1]南博，小林隆文，古藤浩，大澤義明(2012)：制度的・地理的隔絶要素を含む地域における地域間親密度の可視化．日本計画行政学会第35回全国大会研究報告論文集，pp. 25-28.  
[2]小林隆文，小山泰代，南博，大澤義明(2012)：世代間不公平性解消のための投票制度ー被災地における将来人口推計を通してー．日本計画行政学会第35回全国大会研究報告論文集，pp. 85-88.

[3]小林隆史, 大澤義明 (2012): 将来人口推計比較による被災地における転出超過の分析—茨城県を対象として. 2012 年日本建築学会大会学術講演梗概集—都市計画, pp. 1041-1042.

[4]飯田マリ, 鵜飼隆盛, 大澤義明 (2012): 視認距離と道のり距離との相関に関する解析研究. ホ°レーションズ・リサーチ学会 2012 年秋季研究発表会, pp. 30-31.

[5]高森賢司, 小林隆文, 大澤義明 (2012): 自治体内・外からのアクセスを考慮した庁舎移転に関する研究. ホ°レーションズ・リサーチ学会 2012 年秋季研究発表会, pp. 158-159.

◆ その他:

[1]大澤義明(2012): 縮小時代における都市解析研究の意義—人口フレーム, 施設配置, 土地利用規制—. 24 年度日本都市計画学会東北支 夏の講演会, (仙台).

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

教育社会連携推進室長

茗溪会筑波大学支部長

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

社会システム・マネジメント専攻長, 社会工学域長

### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

[1] 応用地域学研究・編集長

[2] 日本都市計画学会会長アドバイザー

◆ 自治体

[1] 茨城県環境影響評価審査会・委員 (茨城県)

[2] 茨城県リサイクル製品認定審査会・会長 (茨城県)

[3] 土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会・委員長 (土浦市)

[4] 土浦市庁舎建設審議会・会長 (土浦市)

[5] 石岡駅橋上化推進検討委員会・会長 (石岡市)

[6] 石岡市都市計画審議会・副会長 (石岡市)

[7] つくば市ホテル等建設審議会・会長 (つくば市)

[8] つくば市建築審査会・会長 (つくば市)

[9] 鹿嶋市防災会議・委員 (鹿嶋市)

[10] 神栖市庁舎の整備に関する市民懇談会・コーディネイター (神栖市)

[11] 茨城県立土浦第一高等学校・評議員 (茨城県教育委員会)

[12] 学校法人茗溪学園・評議員 (学校法人茗溪学園)

氏名	太田 尚孝	職名	助教
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム工学専攻（兼担）， 経営・政策科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	東日本大震災後の都市・地域再生、ドイツ都市研究		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 暮らしのリスクと安心・安全な社会形成  
大学院 都市リスク分析演習／都市構造システム論
- ◆ 指導学生数：  
0人（2012年11月に着任したため）

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
特になし（2012年11月に着任したため）
- ◆ 著書・論文等：  
（査読付学術雑誌掲載論文）  
太田尚孝・エルファディング ズザンネ・大村謙二郎・有田智一・藤井さやか（2012）「ドイツの都市計画における国際建築展（IBA）の役割と存在意義に関する研究-IBAの歴史的発展と現代的な位置づけに注目して」都市計画論文集 47(3), 679-684
- ◆ 学会発表等：  
日本都市計画学会学術論文発表会（2012年11月 弘前大学）
- ◆ その他：  
日本都市計画学会年間優秀論文賞（2012年度）

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
特になし（2012年11月に着任したため）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
特になし（2012年11月に着任したため）

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ 特になし（2012年11月に着任したため）

氏名	太田 充	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	都市経済学、都市計画		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 空間と交通の経済学／地域と地域間の経済学／都市地域経済学演習／プログラミング実習／都市構造論／社会基盤と情報ロジスティクス産業／社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習／

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 1人／  
経営・政策科学専攻 1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（C）「海外における中間財生産による国内都市空間構造の変化に関する研究」（代表）

◆ 著書・論文等：

2種類の企業による都市の均衡形状に関する研究、41-4、853-865 ページ（査読付き）

◆ 学会発表等：

Equilibrium Land Use in a Multicentric City、応用地域学会（ARSC）第27回研究発表大会、2012/11/18、青森公立大学

◆ その他：

なし

## 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 クラス担任（2年生）、コンピュータ委員

## 4. 学外の社会貢献

◆ 都市住宅学会総務企画委員会委員

氏名	大貫 裕二	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	経済統計		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類 日本経済論/少子・高齢化時代の社会・経済システム/東京の都市学  
大学院 地方行財政論/行政と政策決定
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 6人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
国民経済計算の推計と利用を支援する手法に関して研究した。
- ◆ 著書・論文等：  
査読付学術雑誌掲載論文  
1)大貫裕二「家計調査への思い出し記入導入のエージェント・ベース・シミュレーションによる評価」社会・経済システム, No. 33, pp. 115-124, 2012/11
- ◆ 学会発表等：  
1)大貫裕二「交換代数を利用した多元簿記の検討」進化経済学会 第17回大会論文集, 2013/03  
2)大貫裕二「東日本大震災における行政のアクシデントマネジメント」計測・自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 SSI2012 予稿集, 2012/11  
3)大貫裕二「エージェントベースシミュレーターSOARSによる産業連関分析」社会・経済システム学会 第31回大会 予稿集, 2012/11  
4)大貫裕二「想定外の状況に対する行政対応の課題」国際P2M学会 2012年度秋季研究発表大会予稿集, 2012/09  
5)大貫裕二「国民経済計算におけるグローバル人材育成の課題」国際P2M学会第13回春季研究発表大会予稿集, 2012/04
- ◆ その他：  
なし

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
教員免許状講習「使ってみよういろんな統計」

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

修士論文委員、学類運営委員

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 東京工業大学エージェントベース社会システム科学研究センター運営委員

氏名	岡田 幸彦	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	会計学、経営学、サービスサイエンス		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 会計学概論／マネジメント実習／サービスの産業と組織

大学院 ビジネスゲーム／財務会計／管理会計／ビジネス戦略：理論と実践／特定課題研究

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 7人／社会システム工学専攻 7人／経営・政策科学専攻（M2） 5人／社会システム・マネジメント専攻 1人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・日本経営奨学寄附金「医療分野における計量会計研究の推進」（代表）120万円。
- ・水戸信用金庫奨学寄附金「会計工学研究の推進」（代表）200万円。
- ・科学研究費 基盤研究（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（分担）実支出額約400万円。
- ・科学研究費 基盤研究（A）「サービスコンテンツの作り込みとその経済的効果の測定・評価に関する学際的研究」（分担）70万円。

### ◆ 著書・論文等：

- ・岡田幸彦[2012]「サービスコンテンツの収益配分問題と管理会計」『企業会計』第64巻第12号、57-64頁。
- ・中村亮介・大雄智・岡田幸彦[2012]「提携型ポイントプログラム会計の実証分析」『会計プロGRESS』No.13、73-85頁。
- ・岡田幸彦・望月信幸[2012]「業績管理会計の漸進的・革新的変容の論理」日本会計研究学会スタディグループ『情報ニーズの拡張と管理会計の変容 最終報告書』142-152頁。
- ・岡田幸彦[2012]「ABC的原価計算実務への変容過程—日米サービス組織の経験から—」日本会計研究学会スタディグループ『情報ニーズの拡張と管理会計の変容 最終報告書』121-131頁。
- ・片岡洋人・岡田幸彦・窪田祐一[2012]「会計デザイナーポイント交換プログラムの生成・進化の経験から—」『會計』第181巻第5号、115-127頁。

・Takagi, H., H. Kurata, Y. Okada, M. Shigeno, A. Yoshise, Y. Zhang and K. Yamashita [2012], Progress in the Healthcare Service Innovation Project at the Tsukuba University Hospital, 2012 Service Research and Innovation Institute Global Conference, Proceedings, 24-27 July, U.S., pp.1-5.

・Takagi, H., H. Kurata, Y. Okada, K. Yamashita and A. Yoshise [2012], OR/MS-Based Innovation in Patient Management at the Tsukuba University Hospital, 21<sup>th</sup> Frontiers in Service Conference, Proceedings, 15-16 Jun, U.S., pp.1-2.

◆ 学会発表等：

・(研究発表) 鶴飼孝盛・堀正樹・倉田久・岡田幸彦「地域の基幹病院を中心とした外来患者フローモデル」日本OR学会春季研究発表会、2013年3月6日。

・(研究発表) 岡田幸彦「サービス分野における収益配分の問題」神戸大学管理会計研究会、2012年12月15日。

・(研究発表) 倉田久・生稲史彦・岡田幸彦・高木英明・張勇兵・繁野麻衣子・吉瀬章子「経営工学研修の新たな方向性 筑波大学公開講座の事例より」日本経営工学会秋季研究大会、2012年11月17日。

・(研究発表) 島拓也・中村亮介・岡田幸彦「四半期包括利益情報は有用なのか？」第9回筑波大学サービス科学フォーラム、2012年11月6日。

・(研究発表) 根本景太・胡カ・李夏・鄭シュウイ・キホウ・岡田幸彦「筑波山江戸屋におけるマーケティング実験」第9回筑波大学サービス科学フォーラム、2012年11月6日。

・(研究発表) 岡田幸彦「原価情報システムの高度化の可能性」第4回横幹連合総合シンポジウム、2012年11月2日。

・(研究発表) M. Hori, T. Ukai, Y. Okada, H. Kurata, & K. Yamashita, Modeling Outpatient-Flow in a Regional Medical Network System, Asian Conference of Management Science & Applications, China, 7/9/2012.

・(研究発表) 中村亮介・岡田幸彦・大雄智「提携型ポイントプログラムにおけるキャッシュ・フローの特性と会計処理」日本会計研究学会第71回大会、2012年9月1日。

・(研究発表) 中村博之・高橋賢・岡田幸彦ほか「情報ニーズの拡張と管理会計の変容 最終報告」日本会計研究学会第71回大会、2012年8月30日。

・(研究発表) Takagi, H., H. Kurata, Y. Okada, M. Shigeno, A. Yoshise, Y. Zhang, and K. Yamashita, Progress in the Healthcare Service Innovation Project at the Tsukuba University Hospital, 2012 Service Research and Innovation Institute Global Conference, US., 26/7/2012.

・(研究発表) 岡田幸彦「サービス・コンテンツの損益認識に関する課題」メルコ学術振興財団管理会計フォーラム、2012年6月16日。

・(研究発表) Takagi, H., H. Kurata, Y. Okada, K. Yamashita, and A. Yoshise, OR/MS-Based Innovation in Patient Management at the Tsukuba University Hospital, 21<sup>th</sup> Frontiers

in Service Conference, US., 16/6/2012.

・(研究発表) 岡田幸彦・阪本勇樹・樋口翔平・合田崇章・高野悠司「次代のものづくり原価情報システムはどこへ向かうのか?」ものづくり管理会計研究会、2012年4月19日。

- ◆ その他：  
なし

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
筑波大学リサーチユニット「サービス組織の経営学」代表  
筑波大学附属病院 病床管理 IT 化検討委員  
理工学群 広報委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
大学院 新入生オリエンテーション委員長、経営・政策 WG 委員、社会工学ルネサンス検討委員  
社会工学類 広報委員長、クラス担任（4年生）

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 産業経理協会「原価会計講座」講師
- ◆ 筑波山江戸屋・水戸信用金庫・水戸ホーリーホックなど地域企業との産学共同研究
- ◆ 筑波大学公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師
- ◆ 統計数理研究所 客員准教授
- ◆ 京都大学経営管理大学院などで非常勤講師
- ◆ 日本会計研究学会スタディグループ 構成員
- ◆ サービス学会 発起人

氏名	岡本 直久	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾・物流		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 交通計画／都市計画マスタープラン策定実習／社会基盤と情報・ロジスティックス産業／情報リテラシー演習／都市構造論／東京の都市学／サービスの産業と組織

大学院 交通計画論／プロジェクト評価演習

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 4人

社会システム工学専攻 3人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 交通関連ビッグデータの社会への実装研究小委員会委員（土木学会）

### ◆ 著書・論文等：

査読付論文

- ・ Marie Danielle Guillen, Haruo Ishida, Naohisa Okamoto: Is the use of informal public transport modes in developing countries habitual? An empirical study in Davao City, Philippines, Transport Policy, DOI information: 10.1016/j.tranpol.2012.03.008, 2012年7月
- ・ 崔 瑛・岡本 直久：観光地における地域ブランド構築の内部関係者による資源活用パターンと課題構造に関する研究 - 関東・甲信越地域の市町村を対象として -, 論文集 日本都市計画学会学術研究論文集, 第47-2号, 105-116頁, 2012年10月

### ◆ 学会発表等：

- ・ 関根崇人・岡本直久・石田東生：高齢者の交通行動に基づく新しいモビリティの可能性について, 土木計画学研究発表会・講演集, Vol. 45, CD-ROM 講演番号: 42, 2012年6月
- ・ 高島遼史・岡本直久・石田東生：リンク情報から旅行時間情報を作成する方法に関する一考察: 土木計画学研究発表会・講演集, Vol. 45, CD-ROM 講演番号: 59, 2012年

6月

- ・ 一丸結夢・石田東生・岡本直久：震災を契機としたエネルギー消費および交通行動の変化に関する研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol. 46，CD-ROM 講演番号：P24，2012年11月
- ・ Naohisa OKAMOTO: Panel Survey on energy consumption and travel behavior after the Great East Japan Earthquake, Anglo-Japan Symposium Building Resilient and Adaptable Infrastructure and Society -Drawing on Experiences of Tohoku Earthquake in 2011 2012年11月

◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
システム情報工学研究科 企画室員  
つくばエコシティ推進グループ委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
社会システム・マネジメント専攻 運営委員、カリキュラム委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県公共事業再評価委員会委員：茨城県：委員
- ◆ 京浜港物流高度化推進協議会 委員：財団法人 港湾空間高度化環境研究センター：委員
- ◆ 土浦市公共交通活性化協議会会長：土浦市：会長
- ◆ 取手市都市計画審議会委員：取手市：委員
- ◆ 茨城県移動性・安全性向上委員会委員長：国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所：委員長
- ◆ Eastern Asia Society for Transportation Studies：事務局幹事
- ◆ 日本都市計画学会：学術委員
- ◆ 日本交通学会：編集委員

氏 名	奥島 真一郎	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	国際総合学類（専任）、社会工学類（兼担）		
研究分野	環境経済学、政策分析		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/環境科学とリスクマネジメント（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）/都市計画実習（社会工学類開講国際総合学類共通）

大学院 環境政策（社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻共通）

### ◆ 指導学生数：

経政・政策科学専攻（修士論文） 1人/国際総合学類 8人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（若手研究（B））「モラルモチベーションと環境政策」（代表）

### ◆ 著書・論文等：

「非経済的動機を導入した経済理論の可能性：カント的アプローチ」（共著）『経済研究』、Vol. 63、No. 4、2012年10月、pp. 346-364 .

“Energy Poverty in Japan: How Does the Energy Price Escalation Affect Low Income and Vulnerable Households?”（共著） *Proceedings of the 32<sup>nd</sup> Annual North American Conference of the International Association for Energy Economics*, forthcoming.

## 3. 学内運営

### ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学キャリア支援室員

### ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院修士論文・特定課題研究委員

大学院総務委員  
国際総合学類就職委員（委員長）  
国際総合学類運営委員  
国際総合学類カリキュラム委員

#### 4. 学外の社会貢献

一橋大学経済研究所非常勤研究員  
日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員

氏名	甲斐田 直子	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）、持続環境学専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻（専任）、社会システム工学専攻（専任）、 経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社工学類（専任）		
研究分野	環境経済・政策学、国際環境協力評価論		

### 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境科学とリスクマネジメント／社会調査実習／情報リテラシー演習／フレッシュマンセミナー

大学院 都市計画の課題と手法／環境倫理学概論／環境政策概論／持続環境学フォーラム II

◆ 指導学生数：

環境科学専攻 2名

### 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

早稲田大学 GCOE プログラム「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」学外研究協力者

◆ 著書・論文等：

甲斐田直子，開発援助と社会的環境管理能力の形成，松岡俊二（編著），アジアの環境ガバナンス，勁草書房，pp.159-185（第8章），2013年.

◆ 学会発表等：

甲斐田直子，途上国国家開発計画における環境政策の変遷，環境経済・政策学会 2012年大会報告，東北大学，2012年9月.

◆ その他：

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

SSM 広報委員会

持続環境学専攻 広報・IT委員会（委員長）、教育プログラム委員会、英語教育プログラ

ム委員会、環境マイスター委員会

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ つくば市環境マイスター講座講師（2012年7月）
- ◆ 茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員（2012年7月～2013年3月）
- ◆ 茨城県鹿嶋市立平井小学校学校地域防災力強化委員会（2012年7月～2013年3月）

氏名	金澤 雄一郎	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任）, 経営・政策科学専攻（専任）, コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	統計科学・産業組織論・マーケティング・組織行動論・犯罪学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 Introduction to Management Science, データ解析  
大学院 理論統計学、測度論的確率論、データ解析

### ◆ 指導学生数：

社会工学類1人／社会システム工学専攻3人/  
社会システム・マネジメント専攻5人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費

基盤研究（B）係数分布型ロジットモデルによる単期間需要推定モデルの提案・比較と多期間への拡張（代表）

基盤研究（B）看護行動研究への組織心理学的アプローチ（分担）

基盤研究（C）女子受刑者の刑務所内の反則行為に対する個人及び環境要因の相互作用に関する研究（分担）

### ◆ 著書・論文等：

1. Nishida, K. and Kanazawa Y. (2013a) “On Variance-Stabilizing Multivariate Nonparametric Regression Estimation.” *Communications in Statistics Part A: Theory and Method, Accepted*. 0.274 Impact Factor

2. Myojo, S. and Kanazawa Y. (2012b) “On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available.” *International Economic Review, Vol. 53 (3): 887-937*. 1.56 Impact Factor

3. 遊間義一, 金澤雄一郎, 遊間千秋(2012a) オイルショック後の日本における少年の殺人発生率と完全失業率の長期的関連とその構造変化. *理論と方法*, 27 (1) 149-168.

### ◆ 学会発表等：

1. International Society for Bayesian Analysis 2012 World Meeting Kyoto, Japan

June 27th, 2012. “Estimating the Markov switching almost ideal demand system: a Bayesian approach.”

2. 2012 年統計関連学会連合大会 2012 年 9 月 11 日. “Variable Selection for Bayesian Linear Regression Model in a Finite Sample Size.”

3. 2012 年統計関連学会連合大会 2012 年 9 月 11 日. “A comparison among the three variance-stabilizing bandwidth matrices for the nonparametric regression estimator: Scalar, diagonal and full bandwidth matrices.”

4. 2012 Annual Meeting of American Criminological Society, November 14<sup>th</sup>, 2012. “Trajectory Groups of Rule-Breaking Behaviors in Japanese Women Prisons”

5. Research Institute of Mathematical Sciences 共同研究会, 京都大学数理解析研究所, 3 月 5 日, 2013 年, “On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available.”

6. 研究集会「ノンパラメトリック統計解析とベイズ統計」慶應義塾大学 3 月 15 日, 2013 年, “On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available.”

◆ その他 :

American Mathematical Society Mathematical Reviews Reviewer on “Lim, Eunji et al., Consistency of multidimensional convex regression. Oper. Res. 60 (2012), no. 1.”

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

学長選考意向調査投票管理委員会委員

システム情報工学研究科学務・カリキュラム委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

社会工学類予算委員会委員長

社会工学類 2 学期制移行カリキュラム委員会委員

社会システム工学専攻、経営政策科学専攻修士論文・特定課題委員長

### 4. 学外の社会貢献

ISBA 2012 World Meeting Kyoto, Japan June 25-29, 2012 Organizing Committee

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員

氏 名	川村 大伸	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任） コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	経営工学，品質管理，応用統計学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：学類 プログラミング実習
- ◆ 指導学生数：0人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - [1] ヘルスケアにおける統計的データ解析に基づいたケアプラン作成支援. 科学研究費補助金・基盤研究C. (分担者)
- ◆ 著書・論文等：
  - [1]Kawamura, H., Nishina, K., Higashide, M. and Suzuki, T. (2012): “Control Characteristics: a case study on semiconductor manufacturing”, Asian Journal on Quality, Vol.13, No.1, 37-52.
  - [2]Kawamura, H., Nishina, K. and Suzuki, T. (2012): “Process Adjustment Control Chart for Simultaneous Monitoring of Process Capability and State of Statistical Control”, Frontiers in Statistical Quality Control, Vol.10, 121-130.
  - [3]Suzuki, T., Kawamura, H., Yasui, S. and Ojima, Y. (2012): “Proposal of Advanced Taguchi’s Linear Graphs for Split-Plot Experiments”, Frontiers in Statistical Quality Control, Vol.10, 339-348.
  - [4]Tsutsumi, Y., Kawamura, H. and Suzuki, T. (2012): “Capability of Detection for Poisson Distributed Measurements by Normal Approximations”, Frontiers in Statistical Quality Control, Vol.10, 361-370.
  - [5]Nishina, K., Higashide, M., Kawamura, H. and Ishii, N. (2012): “On the Integration of SPC and APC: APC Can Be a Convenient Support for SPC”, Frontiers in Statistical Quality Control, Vol.10, 109-119.
  - [6]Kawamura, H., Takada, K., Furukawa, M. and Suzuki, T. (2012): “Factor Assignment based on Linear-by-Linear Interaction for a Three-Level Supersaturated Design”, International Journal of Services Operations and Informatics, Vol.7, No.2, 245-256.

- [7]Kawamura, H., Furukawa, M. and Suzuki, T. (2012): "Selection of Columns in Three-Level Supersaturated Designs", Proceedings of the IIE Asian Conference 2012, 331-336.
- [8]Oikawa, T., Tsutsumi, Y., Kawamura, H. and Suzuki, T. (2012): "The Estimation of Comparing the Minimum Detectable Value for Poisson Distributed Measurements", Proceedings of the 10th ANQ Congress, 589-594.
- [9]Nigorikawa, T., Suzuki, T. and Kawamura, H. (2012): "Spatiotemporal Interpolation of Temperature Data in Tokyo", Proceedings of the 10th ANQ Congress, 595-600.
- [10]Kawamura, H., Horii, K. and Suzuki, T. (2012): "Constrained Bounded Adjustment Scheme", Proceedings of the 10th ANQ Congress, 675-679.
- [11]Horiguchi, A., Suzuki, T., Kawamura, H., Kotani, A. and Hayashi, Y. (2012): "Recent Developments in Precision Evaluation in Non-Quantitative Measurements", Proceedings of the 10th ANQ Congress, 692-698.
- [12]Hamaguchi, R., Tsutsumi, Y., Kawamura, H. and Suzuki, T. (2012): "A Note on Application of Measurement Precision for Binary Data", Proceedings of XX IMEKO World Congress, CD-ROM.
- [13]Suzuki, T., Tsutsumi, Y., Hamaguchi, R. and Kawamura, H. (2012): "Recent Developments in Precision Evaluation in Non-Quantitative Measurements", Proceedings of XX IMEKO World Congress, CD-ROM.

◆ 学会発表等：

- [1]堤雄亮, 及川智博, 川村大伸, 鈴木知道(2012) : "測定方法の検出能力に関する統計的考察", 日本品質管理学会第98回研究発表要旨集, 77-80.
- [2]高橋達也, 仁科健, 川村大伸, 松村浩, 東出政信(2012) : "設備パラメータ間の因果関係のモニタリング", 日本品質管理学会第98回研究発表要旨集, 201-204.
- [3]川村大伸, 仁科健, 東出政信, 鈴木知道(2012) : "多品種少量生産における管理図管理", 日本品質管理学会第98回研究発表要旨集, 205-208.
- [4]濁川太郎, 川村大伸, 鈴木知道, 横山仁, 安藤晴夫(2012) : "時間と空間を考慮した気温データの補間法", 日本ヒートアイランド学会第7回全国大会, 116-117.
- [5]石川光之, 鈴木知道, 川村大伸(2012) : "高齢者介護における高齢者の状態とケアの関係性の把握に関する研究", 日本品質管理学会第42回年次大会研究発表要旨集, 165-168.

◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本品質管理学会 論文誌編集委員会 委員
- ◆ 日本品質管理学会 国際委員会 委員
- ◆ ISO/TC69/SC4, SC7, TC69/WG3 国内委員会 委員
- ◆ (財)日本規格協会 通信講座による品質管理中級コース教材作成委員会 委員
- ◆ (財)海外産業人材育成協会 セミナー講師
- ◆ 東京理科大学理工学部経営工学科 非常勤講師
- ◆ 論文査読

英文誌 : Journal of Japan Industrial Management Association

査読付国際会議録 : Proceedings of the 10th ANQ Congress

氏名	岸本 一男	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	数理工学，数理ファイナンス，数理政治，その他		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 総合科目：経営の科学，
  - 社会工学類：微分積分1，数理解析，応用数理，
  - 社会システム工学：金融・デリバティブ
- ◆ 指導学生数：社会工学類2名，社会システム工学3名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費基盤研究（C）
    - 金融資産日中取引時間間隔と取引量の分布の研究とその応用（代表）
  - 科学研究費基盤研究（B）
    - 戦後日本の政治変動と参議院選挙：市区町村別データに基づく実証的研究（分担）
- ◆ 著書・論文等：
  - なし
- ◆ 学会発表等：
  - Li Meng, Hui Xiaofeng, KISHIMOTO Kazuo, The Nikkei 225 Futures of the Osaka Stock Exchange are bullish when the available liquidity on the ask side is deeper, Proceedings of the 4th (2012) International Conference on Financial Risk and Corporate Finance Management, 2012, Vol. 2, 650-654.（査読付き）
  - 国内学会発表：3件
  - その他研究会発表：1件
- ◆ 筑波大学データバンク年報：2件

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
  - システム情報工学系運営委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム工学専攻長

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本応用数理学会選挙管理委員長
- ◆ 日本応用数理学会数理政治研究部会幹事
- ◆ 東京大学社会科学研究所諮問委員

氏名	木島 陽子	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	開発経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 国際開発論／経済学入門 III／経済政策分析
  - 大学院前期課程 国際開発論／日本とアジア経済
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 4人／社会システム工学専攻 0人／
  - 社会システム・マネジメント専攻 0人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤 A（海外学術調査）「サブサハラアフリカのコム生産拡大に関する実証研究」（分担）

- ◆ 著書・論文等：

著書

Yoko Kijima and Keiji Otsuka (2013) “Causes and Consequences of NERICA Adoption in Uganda” In *A Green Revolution in Sub-Saharan Africa: Finding Ways to Boost Productivity on Small Farms*, edited by Keiji Otsuka and Donald Larson. Amsterdam, Netherlands: Springer.

論文

Yoko Kijima and Horacio Gonzalez-Ramirez (2012) “Has the Program 3x1 for Migrants Contributed to Community Development in Mexico? Evidence from Panel Data of 2000 and 2005,” *Review of Development Economics* 16 (2): 291-304.

Yoko Kijima, Yukinori Ito, and Keiji Otsuka (2012) “Assessing the Impact of Training on Lowland Rice Productivity in an African Setting: Evidence from Uganda,” *World Development* 40(8): 1610-1618.

◆ 学会発表等： なし

◆ その他：なし

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
留学生委員会、学生支援対応チーム

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
学類：クラス担任（4年生）、卒業論文梗概集編集委員委員長、非常勤講師審査委員、学生委員  
SSM：学生相談室委員長

### 4. 学外の社会貢献

◆ なし

氏名	倉田 久	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）， コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	経営学、サプライチェーン・マネジメント		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営情報システム／経営工学概論／サービスの産業と組織

大学院 ビジネスゲーム／企業計画情報システム

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／経営・政策科学専攻 6人／社会システム工学専攻 0人

社会システム・マネジメント専攻 0人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究分担者：科学研究費補助金 基盤研究 (A)・23241047 （研究代表者：高木英明教授）

2011年4月より現在に至る

注：筑波大学 SIP (Service Innovation Project) メンバーとして参加

◆ 著書・論文等：

論文（査読付き）

Zhu, Xiaowei, Samar K. Mukhopadhyay, and Hisashi Kurata, (2012), “A review of RFID technology and its managerial applications in different industries,” *Journal of Engineering & Technology Management*, Vol. 29 (1), 152-167.

論文 (Conference proceedings)

Hideaki Takagi, Hisashi Kurata, Yukihiro Okada, Maiko Shigeno, Keizo Yamashita, Akiko Yoshise, and Yongbing Zhang, (2012), “Progress in the Healthcare Service Innovation Project at the Tsukuba University Hospital,” Conference proceeding of the Annual SRII Global Conference, San Jose, CA, USA, on July 24 - July 27, 2012.

Hideaki Takagi, Hisashi Kurata, Yukihiro Okada, Keizo Yamashita, and Akiko Yoshise, (2012), “OR/MS-Based Innovation in Patient Management at the Tsukuba University Hospital” Conference proceeding of the 2012 Frontiers in Service Conference, Robert

H. Smith School of Business at the University of Maryland, Washington D.C., USA,  
on June 14-17, 2012.

◆ 学会発表等：

倉田久「筑波大学サービスカイゼン研修コースを事例とした新たな研修スタイルの提案」、  
日本 OR 学会日本 OR 学会：第 18 回サービスサイエンスフォーラム、会場：筑波大学東京  
キャンパス、2012 年 12 月 21 日。

倉田久、生稲史彦、岡田幸彦、繁野麻衣子、高木英明、張勇兵、吉瀬章子「経営工学研修  
の新たな方向性：筑波大学公開講座の事例より」、日本経営工学会平成 24 年度秋季大会、  
会場：大阪工業大学、2012 年 11 月 17 日。

倉田久「How does retailers' promotion affect the performance of inventory pooling?」、  
日本オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会：The International Symposium  
of Operations Management & Strategy、会場：青山学院大学、2012 年 11 月 11 日。

Masaki Hori , Takamori Ukai, Yukihiko Okada, Hisashi Kurata, and Keizo Yamashita,  
“Modeling Outpatient-Flow in a Regional Medical Network System,” Presented at the  
conference of Asian Association of Management Science and Application (AAMSA 2012)  
at Sichuan, China, on September 7, 2012.

Hideaki Takagi, Hisashi Kurata, Yukihiko Okada, Maiko Shigeno, Keizo Yamashita,  
Akiko Yoshise, and Yongbing Zhang, “Progress in the Healthcare Service Innovation  
Project at the Tsukuba University Hospital,” Presented at the Annual SRII Global  
Conference, San Jose, CA, USA, on July 27, 2012.

Hideaki Takagi, Hisashi Kurata, Yukihiko Okada, Keizo Yamashita, and Akiko Yoshise  
“OR/MS-Based Innovation in Patient Management at the Tsukuba University Hospital,”  
Presented at 21st Frontiers in Service Conference at Robert H. Smith School of  
Business, University of Maryland on June 15, 2012.

倉田久「新製品投入がアフターサービスに与える影響 モデル化の一考察」、2012 年日本オ  
ペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 (JOMSA) 大会、会場：東洋大学、2012  
年 6 月 2 日。

田中正敏、倉田久「On a survey of a bargaining model on supply chain with information

asymmetry]、2012 年日本オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 (JOMSA) 大会、会場：東洋大学、2012 年 6 月 2 日。

倉田久「耐久消費財におけるアフターサービスと新製品買替のトレードオフ」、日本経営工学会平成 24 年春季大会、会場：法政大学、2012 年 5 月 26 日。

田中正敏、倉田久「情報の非対称性のあるサプライチェーンの取引政策の一考察」、日本経営工学会平成 24 年春季大会、会場：法政大学、2012 年 5 月 26 日。

Hisashi Kurata, “Relation between the launch of new durable goods and the customers’ purchase of after-sales service” Presented at POMS annual conference 2012 at Chicago, IL on April 23, 2012.

◆ その他：

招聘講演

倉田久「サービス業の効果・効率向上について」、社団法人いばらき社会起業家協議会主催の第 8 回いばらき創業塾での招聘講演、会場：三の丸ホテル（茨城県水戸市）、2013 年 3 月 6 日。

倉田久「ヒト・サービスのカイゼンに小さな仕組みで大きな満足-サービス・ポカヨケ-」、一般社団法人健やかいばらき 100 人の会総会での招聘講演、会場：ホテル東雲（茨城県つくば市）、2012 年 5 月 18 日。

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 留学生対応委員、留学生連絡協議会委員、短期留学国際プログラム（JTP）  
作業部会委員

3 専攻合同 運営委員、広報委員

### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会理事

日本オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会（JOMSA） 研究委員（2011 年より）

◆ 学術雑誌編集委員

Editorial Board member of “International Journal of Revenue Management,” April 2009-present.

◆ 筑波大学公開講座

筑波大学公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師及び運営業務担当 2012年4月—2012年6月

氏名	近藤 文代	職名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任）, 経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	マーケティングサイエンス、消費者行動の異質性・ダイナミクス性研究、ベイジアン統計解析		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 統計学Ⅱ／マーケティング工学
  - 大学院 マーケティングサイエンス／アドバンスドデータ解析／ベイジアン統計解析
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 社会工学類 1人／社会システム工学専攻 1人
  - 社会システム・マネジメント専攻 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤研究 (A) 「データベースマーケティングと消費者理論の融合による CRM の新展開」(研究分担者)
- ◆ 著書・論文等：
  - Kondo, F. N., Ishida, H., and Ghyas, Q. M (2012), Utilitarian Mobile Information Services are Modeled Better by The ACSM than Hedonic Services on a Cross National Comparison, International Journal of Mobile Marketing, Vol. 7, No.2, pp. 98 - 114.
  - Kondo, F. N., Ishida, H. and Ghyas, Q. (2012), A Difference in Customer Satisfaction Model on Mobile Utilitarian Information Services Between Japan and US, in the proceedings of the 11th International Conference on Mobile Business (ICMB) - an AIS affiliated conference, pp. 90 - 100.
  - Ghyas, Q. M., Hirotaka Sugiura and Kondo, F. N (2012), Examining User Intention Behaviour Towards e-Readers in Japan Using the Decomposed Theory of Planned Behaviour in the Proceedings of the Second International Conference on Mobile Services, Resources, and Users (MOBILITY 2012), pp. 38 - 46.
  - Kondo, F. N. (2012), Bayesian Dynamic Factor Analysis and the Corresponding Clusters for Changing Needs in the Proceedings of International Workshop on Marketing Science and Service Research, 159-168.
- ◆ 学会発表等：

Kondo, F. N., Ishida, H. and Ghyas, Q. (2012), A Difference in Customer Satisfaction Model on Mobile Utilitarian Information Services Between Japan and US, the 11th International Conference on Mobile Business (ICMB) – an AIS affiliated conference, June 2012 in Deft, Netherland.

Kondo, F. N. (2012), Bayesian Dynamic Factor Analysis and the Corresponding Clusters for Changing Needs, International Workshop on Marketing Science and Service Research, July 2-3, 2012. Venue, held at The Institute of Statistical Mathematics (ISM), Tokyo.

Ghyas, Q. M., Hirotaka Sugiura and Kondo, F. N. (2012), Examining User Intention Behaviour Towards e-Readers in Japan Using the Decomposed Theory of Planned Behaviour in the Proceedings of the Second International Conference on Mobile Services, Resources, and Users (MOBILITY 2012), October 2012 in Barcelona, Spain.

Qazi Mahdia Ghyas and Fumiyo N. Kondo, Examining User Intention Behavior to Use E-book Reader in Japan: By Using Decomposed Theory of Planned Behavior with Extension of Two Antecedents-Hedonic and Utilitarian Products, 日本マーケティング・サイエンス学会第91回研究大会発表, 6月23日.

◆ その他 :

Best Paper Award in Marketing, the 7th Asian Business Research Conference held at BIAM Foundation, Dhaka, Bangladesh in December 2012 : “Mobile Information Services Marketing: An Assessment of Needs, Quality and Satisfaction” , Shahriar Akter and Fumiyo Kondo.

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :  
ウィーン経済経営大学との国際学術協定の調停教員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :  
学類 クラス担任 (3年生)、授業評価委員  
SSM 広報委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ ISBA 2012 Conference, Local Organizer
- ◆ 日本マーケティング・サイエンス学会 (論文査読)、日本統計学会誌 (論文査読)、  
Electronics and Telecommunications Research Institute Journal (論文査読)

氏名	繁野 麻衣子	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	組合せ最適化、アルゴリズム論		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 数理計画／数理工学モデル化実習／計算機科学／総合演習社会システム分析
  - 大学院 ビジネス数学／離散最適化理論
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 4人 社会システム工学専攻 2人
  - 社会システムマネジメント専攻 3人 経営政策科学専攻（特定課題）4人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤研究(C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」（代表）
  - 科学研究費 基盤研究(A)「患者の満足とスタッフの適正論文を実現する地域機関病院の医療サービス科学」（分担）
  - 共同研究 牛久市福祉課「コミュニティバス運行最適化に関する研究」（分担）
- ◆ 著書・論文等：
  - 高橋里司，竹房あつ子，繁野麻衣子，中田秀基，工藤知宏，吉瀬章子「省電力化のためのマッチングに基づく仮想計算機パッキングアルゴリズム」情報処理学会論文誌. コンピューティングシステム, 5(5) (2012) 33-42.
  
  - Reiko TAKEHARA, Masahiro HACHIMORI and Maiko SHIGENO, "A comment on pure-strategy Nash equilibria in competitive diffusion games," Information Processing Letters, 112 (2012) 59-60
  
  - M. ZHANG, S. LUO, and M. SHIGENO,, On the Number of Edges in a Minimum C6-saturated Graphs, Discussion paper, 1299.
  
  - 久野誉人，繁野麻衣子，後藤順哉「数理最適化」オーム社（2012）， 3章， 5章執筆担当
- ◆ 学会発表等：

高橋里司, 竹房あつ子, 繁野麻衣子, 中田秀基, 工藤知宏, 吉瀬章子「省電力化のためのマッチングに基づく仮想計算機パッキングアルゴリズム」情報処理学会論文誌. 先進的計算基盤システムシンポジウム2012. 5. 16-18, 神戸国際会議場

Satoshi Takahashi, Atsuko Takefusa, Maiko Shigeno, Hidemoto Nakada, Tomohiro Kudoh and Akiko Yoshise "Virtual Machine Packing Algorithms for Lower Power Consumption," 4th IEEE International Conference on Cloud Computing Technology and Science (2012) IEEE. 2012. 12. 3-6, 台湾

八森正泰, 竹原令依子, 繁野麻衣子, グラフ上の離散ボロノイゲームにおけるナッシュ均衡, 日本オペレーションズリサーチ学会秋季研究発表会、2012. 9. 12-13, ウィンク愛知

坂井教人, 繁野麻衣子, 塚本一也, タクシー配車計画への OR 手法の適用事例, 日本オペレーションズリサーチ学会春季研究発表会, 2013. 3. 5-6, 東京大学

坂井教人, 繁野麻衣子, タクシー車両配分計画に関する一考察、日本応用数理学会研究部会連合発表会, 2012. 3. 14-15, 東洋大学

◆ その他 :

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :  
システム情報工学研究科入試実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :  
SSM 入試実施委員  
社会工学類 運営委員, スポーツデー実行委員

### 4. 学外の社会貢献

日本応用数理学会論文誌編集委員  
日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員  
公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師  
サイエンスパートナーシッププロジェクト 講師  
日立第一高校 HR セミナー講師  
土浦協同病院ネットワークシステム評価委員

氏名	庄司 功	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	時系列解析		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
学類：計量時系列分析、計量ファイナンス演習、統計Ⅱ、大学院：時系列解析
- ◆ 指導学生数：  
社会システム工学専攻 1名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
意思決定問題に関する計算モデルの開発、ノンパラメトリック推定方法の開発  
科学研究費 基盤 C 「心理的バイアスを考慮した意思決定問題に関する計算モデルの開発とその応用」(代表)
- ◆ 著書・論文等：  
Shoji, I., (2012), Nonparametric estimation of nonlinear dynamics by local linear approximation, Chaos and Complexity, Theory for Management; Nonlinear Dynamics, 368-379.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
博士論文委員長、コンピュータ委員会

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ なし

氏名	鈴木 勉	職名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム・マネジメント専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム工学専攻（兼担）， 経営・政策科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	立地科学，都市空間構造，持続可能型都市形態，都市リスク分析，地理情報の都市計画への応用		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を探るⅢ

社会工学類 線形代数Ⅰ／都市データ分析／都市計画実習／都市解析／  
暮らしのリスクと安心・安全な社会形成

博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／  
都市リスク分析演習

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／リスク工学専攻 3人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（基盤研究(A)）「地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用」（代表）

科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究） 「集約型都市構造設計への交通システムのインテグレーションに関する研究」（代表）

三菱財団社会福祉助成 「高齢者の購買難民化リスクに対する商業施設の適正な配置構造に関する研究」（代表）

科学研究費補助金（基盤研究(B)）「速度マネジメントに着目したエコドライブ普及施策の定量的評価」（分担）

筑波大学革新的研究等支援プログラム 「学生協働・地場連携による筑波大学キャンパス・リノベーション－グリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの融合－」（分担）

### ◆ 著書・論文等：

鈴木勉，「2種類の施設を統合する施設配置問題：幼保一体化への適用」，Transactions of the Operations Research Society of Japan, Vol.55, pp.27-41, 2012.

鈴木勉・大城将範「東京区部における都市施設分布と年齢別人口構成の推移の関連性分析」，

GIS—理論と応用, Vol.20, No.1, pp.1-9, 2012.

安立光陽・鈴木勉・谷口守, コンパクトシティ形成過程における都市構造リスクに関する予見, 土木学会論文集 D-3, Vol.68, No.2, pp.70-83, 2012.

Yuran Choi, Sohee Lee and Tsutomu Suzuki, "Spatial Factors and the Closing and Opening Probability of Supermarkets in Japan," *Proceedings of the International Symposium on Urban Planning 2012 (ISUP2012)*, 2012. (CD-ROM)

崔唯爛・鈴木勉, 「高齢者に着目した食料品購買行動と利便性の意識に関する研究」, 都市計画論文集, Vol.47, No.3, pp.271-276, 2012.

長谷川大輔・鈴木勉, 「運行シミュレーションによる地域公共交通の運行方式の比較—茨城県常総市を対象としたケーススタディー」, GIS—理論と応用, Vol.21, No.1, pp.9-19, 2013.

Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, "Protection Strategies for Critical Retail Facilities: Applying Interdiction Median and Maximal Covering Problems with Fortification," *Journal of the Operations Research Society of Japan*, Vol.56, No.1, pp.38-55, 2013.

鈴木勉, 「空間情報を活用した GIS 演習科目実践事例」, オペレーションズ・リサーチ, Vol.58, No.1, pp.30-36, 2013.

◆ 学会発表等 :

Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, "The Probability of Closure of Supermarkets in Demand-Decreasing Society," presented at the 9th World Congress of the Regional Science Association International, Timisoara, Romania, May 9-12, 2012.

Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, "Critical Facility Capacitated r-Interdiction Location Problem: An Example of Grocery Stores with Limited Demand," presented at EURO XXV, Vilnius, Lithuania, July 9-11, 2012.

Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, "Protecting Hierarchical Facilities with Interdiction due to Decreasing Demand," presented at the 12th International Symposium on Locational decisions (ISOLDE XII), Nagoya & Kyoto, Japan, July 19-24, 2012.

Tsutomu Suzuki, "Locating Child Care Facilities by the Integration of Kindergarten and Nurseries," presented at the 12th International Symposium on Locational decisions (ISOLDE XII), Nagoya & Kyoto, Japan, July 19-24, 2012.

鈴木勉, 「一部の施設の機能停止を前提とした複数施設の最適配置」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.162-163, 2012.

加藤秀樹・安藤良輔・西堀泰英・近藤美則・鈴木勉, 「エコドライブ活動による日常の運転特性の変化に関する研究—一般乗用車を対象とした兵庫県における事例—」, 自動車技術会秋季学術講演会, 2012.

- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
つくばエコシティ推進グループ委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
システム情報工学研究科リスク工学専攻予算委員長  
システム情報工学研究科リスク工学専攻教育企画委員長

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員，IAOR 委員会委員，国際委員会委員  
国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員  
常総市公共交通活性化協議会会長  
守谷市公共交通活性化協議会委員  
高萩市防災会議委員  
土浦市消防本部新庁舎建設検討委員会委員  
筑波研究学園都市交流協議会 3E フォーラム都市構造・交通システムタスクフォース座長

氏名	住田 潮	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任） コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融工学</li> <li>・インターネットを中心とする IT 分析</li> <li>・ロジスティクスシステム分析</li> <li>・応用確率論</li> <li>・組織行動論</li> <li>・マーケティング・サイエンス</li> <li>・生産システム分析</li> <li>・国際経営比較</li> <li>・応用確率過程論</li> <li>・起業と革新マネジメント</li> </ul>		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類： 社会工学実習【0.1】
  - 大学院前期課程： プロジェクト・マネジメント理論と実際【0.1】
- ◆ 指導学生数：
  - 博士： 修了 1名、指導中 8名
  - 修士： 修了 17名、指導中 9名
  - 学類： 修了 14名、指導中 2名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要： 下記に示す外部競争資金合計 578 万円を獲得し、企業との共同研究プロジェクト4件とアメリカのユタ大学との e-MOM 国際比較研究に関する共同研究プロジェクトとを組織し、博士、修士、学類の 50 名を越える学生諸君と共に活発な研究活動を展開した。
  - 1) 奨学寄付金：ソシオテック研究所 「グローバル教育の研究」 100 万円
  - 2) 奨学寄付金：T社「クレジット・カード戦略分析」 100 万円
  - 3) 奨学寄付金：リゾーム社「POS解析によるショッピングセンター戦略分析」  
100 万円
  - 3) 委託研究：太陽誘電モバイル・テクノロジー「防御保全の方法論確立」  
200 万円
  - 4) 科研費 基盤研究（C）：「CRMとインターネット：優良顧客識別アルゴリズム  
の評価とブラウジング行動解析」 78 万円
- ◆ 著書・論文等：

- [1] Sumita, U. and J. Yoshii, "Impact of Mobile Accesses to the Internet on Sales Completion Time in e-Commerce," *Journal of Modern Accounting and Auditing*, Vol. 8, No. 4, pp. 503- 528, April (2012)
- [2] Isogai, R., S. Ohashi and U. Sumita, "Analysis of the Collateralized Debt Obligation Scheme Applied to the Newsboy Problem," *International Journal of Business and Information*, Vol. 7, No. 1, pp 30-58, June (2012)
- [3] Sumita, U. and A. Kim, "Analysis of e-Word-of-Mouth Information for Cosmetic Products in Japan," *International Journal of Electric Commerce Studies*, Vol. 3, No. 1, pp61-82, (2012)
- [4] Huang, J and U. Sumita, "Dynamic Analysis of a Multivariate Reward Process Defined on the UMCP with Application to Optimal Preventive Maintenance Policy Problems in Manufacturing," *Journal of the Operations Research Society of Japan*, Vol 55, No. 2, pp. 158-180, June 2012
- [5] Huang, J and U. Sumita, "Evaluation of Cumulative Random Shocks Generated from a Semi-Markov Modulated Poisson Process and Its Application to CDO Pricing, " *Probability in the Engineering and Informational Sciences*, Vol. 27, Issue 02, pp. 187-208, 2012
- [6] Kotani, M. and U. Sumita, "Structural Analysis of "National Brand vs. Store Brand" with Stochastic Demands," *Proceedings of 2012 International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Hong Kong, March 31-April-1, 2012*
- [7] Sumita, U., S. Shibuya and J. Yoshii, "Sales Prediction of U.S. Movies in Japan Based on U.S. e-WOM Information," *Proceedings of International Conference on Business and Information, Sapporo, July 03-05 (2012)*
- [8] Sumita, U., H. Yamasaki, S. Yu and Y. Zhao, "Analysis of Customer Flows and Related Purchasing Behaviors within a Shopping Mall Based on Sensor Data," *Proceedings of International Conference on Business and Information, Sapporo, July 03-05 (2012)*
- [9] Sumita, U., N. Honma, A. Hoshiba, A. Ito, R. Nojima and R. Terakado, "Development of Customer Segmentation Algorithm for Identifying Core Credit Card Users: CAEP Approach," *Proceedings of International Conference on Business and Information, Sapporo, July 03-05 (2012)*
- [10] Sumita, U., H. Iwamizu, K. Nogami, Y. Ohno and M. Daikoku, "Development of Diagnostic System for Predicting Evolution of Organizational Symptoms Based on OMAC," *Proceedings of International Conference on Business and Information, Sapporo, July 03-05 (2012)*

- [11] Sumita, U and J. Yoshii, "Strategic Flexibility in Exploiting Economies of Scope on 70-30 Principle - A Case Study of Japanese Electronics Industry," *Twelfth Global Conference on Flexible Systems Management, Austria, July 30-August 1 (2012)*
- [12] 崔鐘午、住田潮「日本・韓国における女性フィットネスクラブ会員の身体像に対する運動行動の影響」 スポーツ産業学研究 出版予定
- [13] 石川慎之助、住田潮、吉井淳「地域密着型スポーツクラブのプロ事業化へ向けた意思決定モデル～リアル・オプション・アプローチに基づく最適オプション・投資戦略の数値解法～」応用地域学研究 出版予定
- [14] "Diffusion of PV in Japan and Germany-Role of Market-Based Incentive and Research and Development (R&D) Investment," to appear in *Journal of Technology Innovations in Renewable Energy*

◆ 学会発表等：

1. *International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Hong Kong, March 31-April-1, 2012*
2. *International Conference on Business and Information, Sapporo, July 03-05 (2012)*
3. *Twelfth Global Conference on Flexible Systems Management, Austria, July 30-August 1 (2012)*
4. 日本スポーツ産業学会第21回大会

◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献： 特に無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）： 特に無し

### 4. 学外の社会貢献

- 1) JIRCAS 外部評価委員
- 2) ソシオテック研究所 顧問
- 3) 日本能率協会 Professional Leader Course 主任講師
- 4) 多数の専門誌における論文査読
- 5) 多数の企業経営幹部に対する講演活動
- 6) 編集委員：*International Journal of Business and Information*
- 7) 編集委員：*Global Journal of Flexible Systems Management*
- 8) Co-Chairman, *International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society,*

*e-Education and e-Technology, Hong Kong, March 31-April-1, 2012*

- 9) Co-Chairman, *International Conference on Business and Information, Sapporo, July 03-05 (2012)*

氏名	高木 英明	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任） コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	応用確率過程，待ち行列理論，サービスサイエンス		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
経営・政策科学専攻 サービス科学：理論と実践／特定課題研究
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 1人、社会システム工学専攻 1人  
経営・政策科学専攻 5人、社会システム・マネジメント専攻 2人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  1. 科学研究費補助金，基盤研究(A)「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学（研究代表者）」
  2. 産学連携推進プロジェクト（アントレプレナーシップ教育及び知財教育支援）「サービス産業におけるイノベーション・リーダーの科学的育成と経営改善支援（代表者）」
- ◆ 学会発表等：
  1. H. Takagi, H. Kurata, Y. Okada, K. Yamashita, and A. Yoshise, OR/MS-based innovation in patient management at the Tsukuba University Hospital, 21st Annual Frontiers in Service Conference, June 14-17, 2012, College Park, Maryland, U.S.A.
  2. H. Takagi, H. Kurata, Y. Okada, M. Shigeno, K. Yamashita, A. Yoshise, and Y. Zhang, Progress in the healthcare service innovation project at the University of Tsukuba hospital, Annual SRII Global Conference, July 24-27, 2012, San Jose, California, U.S.A.
- ◆ その他：
  1. 高木英明，民間の自立（自律）による産業の振興，CROSS TY&T, No. 43, pp. 52-54, 2013年2月発行，一般財団法人総合科学研究機構。
  2. 筑波大学公開講座：サービス科学カイゼンコース、2012年4～6月

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
システム情報系長、大学執行役員、学長選考会議委員  
システム情報工学等技術室長、全学技術委員会委員

研究推進会議委員、企画調査委員会委員

施設・土地委員会委員、情報環境委員会委員、利益相反委員会委員

筑波大学出版会 運営・編集委員

北アフリカ研究センター運営委員・研究員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

経営・政策科学専攻特定課題研究世話人

#### 4. 学外の社会貢献

◆ 北陸先端科学技術大学院大学 アカデミックアドバイザー

◆ 独立行政法人森林総合研究所 本所コンプライアンス推進委員会委員

◆ 筑波大学産学連携会 会長補佐

◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会サービスサイエンス研究部会主査

◆ Performance Evaluation 誌 編集委員

◆ SRII Japan、Steering Committee メンバー

◆ 筑波銀行 つくば産業創造懇談会座長

氏名	竹原 浩太	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）， コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	数理ファイナンス，金融工学，応用確率解析		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類：数理工学モデル化実習（繁野教授・山本教授・吉瀬教授と共同）
  - 応用確率論（住田教授と共同）
  - 経営の科学2（渡辺教授・生稲教授と共同）
  - 問題解決と発見（吉瀬教授・有馬講師と共同）
  - 大学院：投資科学（岸本教授と共同）
  - ファイナンス：理論と実践（浅野教授と共同）
  - プロジェクト・マネジメント：理論と実践（山本教授と共同）
- ◆ 指導学生数：
  - 卒業研究：4名
  - 修士：社会システム工学専攻1年 1名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 「アメリカン型オプションに対する解析的価格評価方法の構築」，  
科研費研究活動スタート支援，研究代表者
  - 「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」，  
科研費基盤研究A・一般，研究分担者（代表者：筑波大学 高木英明教授）
- ◆ 著書・論文等：
  - Kohta Takehara, Masashi Toda and Akihiko Takahashi,  
“A General Computation Scheme for a High-Order Asymptotic Expansion Method,”  
International Journal of Theoretical and Applied Finance, Vol. 15-6, pp.903-927,  
2012.
- ◆ 学会発表等：

- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
大学院：カリキュラム委員会  
経営・政策科学専攻：革新的教育プロジェクト「GPA 導入に向けた適正評価モニタリングシステムの構築と運用」  
学類：社会工学類・経営工学主専攻平成 23 年度入学年次クラス担任（吉瀬教授と共同）

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 所属学会  
日本ファイナンス学会，日本金融・証券計量・工学学会，日本 OR 学会，日本統計学会（役員等はなし）
- ◆ 論文査読実績  
和文誌：現代ファイナンス  
英文誌：Asia-Pacific Financial Markets, International Journal of Theoretical Finance, Mathematical Finance
- ◆ 土浦市教育委員会学校給食センター基本構想策定委員会委員，2012 年 10 月～

氏名	谷口 綾子	職名	講師
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム・マネジメント専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会システム工学専攻（兼担）， 経営・政策科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	都市交通計画，態度行動変容研究，災害リスク・コミュニケーション		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】 都市計画実習，統計Ⅰ，交通計画，暮らしのリスクと安心・安全な社会形成，

【大学院前期課程】 都市安全管理特論，リスク工学特別演習，リスク工学基礎，  
都市リスクコミュニケーション，リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 3名 社会システム・マネジメント専攻 1名

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 平成 24 年度日本学術振興会特定国派遣研究者：カールスタッド大学(スウェーデン)における在外研究：研究テーマ「Psychological and cultural factors in altruistic behaviour in public transport」
- 平成 22-24 年度 科学研究費(若手 B)(代表) 子育てバリアフリーの実現に向けた子連れ外出の難易度認知に関する研究
- 平成 22-24 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) パーソナル・ヴィークルの共同利用システムの社会導入のためのMM研究
- 平成 22-24 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) エクメーネ・リサーチジェンスの新体系構築 500,000 円
- 平成 22-24 年度 科学研究費(基盤 A(分担)) 市民生活行動学の構築による部門横断型まちづくりのための政策意思決定方法論の開発
- 平成 22-24 年度 科学研究費(基盤 B(分担)) シティズンシップ教育アプローチによるMM教育のカリキュラム構築
- 平成 22-24 年度 科学研究費(基盤 C(分担)) 標識撤去による美的で安全な交通環境「Shared Space」に関する研究

◆ 著書・論文等：

- (1) 谷口綾子，林真一郎，矢守克也，伊藤英之，菊池輝，西真佐人，小山内信智，藤井聡：小学校における土砂災害避難行動誘発のための授業プログラム構築とその効果分析，災

害情報, No. 11, pp. 43-54, 2013.

- (2) 谷口綾子, 今井唯, 原文宏, 石田東生: 観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究 ～ニセコ・倶知安地域を事例として～, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 68, No. 5 (土木計画学研究・論文集第 29 卷), pp. I\_551-562, 2012.
- (3) 谷口綾子, 吉村聡哉, 石田東生: 車両と歩行者・自転車間のコミュニケーションによる協調行動の生起に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 68, No. 5 (土木計画学研究・論文集第 29 卷), pp. I\_1115-1122, 2012.
- (4) 谷口綾子, 奥山有紀: 子育てバリアフリーにおける世代間ギャップと副作用の可能性に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 68, No. 5 (土木計画学研究・論文集第 29 卷), pp. I\_1133-1142, 2012.

◆ 学会発表等:

1. Taniguchi, A., Fujii, S., Azami, T., Ishida, H. (2012) Persuasive Communication Aimed at Public Transportation-Oriented Residential Choice, The proceedings of European Transport Conference, AET.
2. 谷口綾子, 山本克己: 狩野の品質モデルによる路線バスサービスの特性分類, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 46, 2012.
3. 谷口綾子, 山本克己: 利己的傾向と交通手段への態度・交通行動の関連分析 —茨城県民と東京 23 区民の比較—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 46, 2012.
4. 谷口綾子, 川村竜之介, 赤澤邦夫, 岡本ゆきえ, 桐山弘有助, 佐藤桃: 大学生の服装が景観や授業態度に与える影響に関する研究 —筑波大学の事例—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 46, 2012.
5. 山本克己, 谷口綾子: バス利用者と非利用者、バス乗務員における路線バスイメージの差異に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 46, 2012.
6. 谷口綾子, 大森宣暁: 東日本大震災における首都圏子育て世帯の帰宅困難状況に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 45, 2012.
7. 宮川雄貴, 谷口綾子, 石田東生: 地域の物語が地域愛着に与える影響の検証 —かしてつバスに着目して—, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 45, 2012.
8. 川村竜之介, 谷口綾子: まちなかの居場所の存在が地域との関係性・生活の質に与える影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 45, 2012.

◆ その他:

- (1) 谷口綾子: 災害避難を考える ～クロスロードと雨量・避難情報・対処行動のカード教材～, 教室の窓 2013 年 4 月号 vol. 39 (東京書籍), pp. 38-39, 2013.
- (2) 谷口綾子: 車依存からの脱却 ～MM (モビリティ・マネジメント) のポイント～ 四国運輸研究, 第 30 号, pp. 5-14, 2013.

(3) 谷口綾子：モスクワ地下鉄とバリアフリー，白榆，2012.

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
  - 自転車環境WG（学生生活課）
  - 男女共同参画推進室員（男女共同参画推進室）
  - つくばエコシティ推進グループ：キャンパス交通システムの利用促進
  - 筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入，マネジメントと利用促進
  
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - リスク工学専攻：広報委員
  - 社会工学類：4年担任

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 講演・パネルディスカッション
  - (1) JICA 平成24年度 JICA 集団研修「総合都市交通計画・プロジェクト」における講演 タイトル「Mobility Management - essence and key points」 2012年11月
  - (2) 相模原市 小田急多摩線延伸促進シンポジウム ～小田急多摩線延伸の実現とこれからのまちづくりについて～ におけるパネルディスカッションのパネラー タイトル「公共交通のメリットとまちづくり」 2012年10月
  - (3) 四国運輸局 地域公共交通を考えるシンポジウム～公共交通で健康を取り戻せ！～における講演 タイトル「クルマ依存からの脱却～モビリティ・マネジメントのポイント～」 2012年10月
  - (4) 交通エコロジーモビリティ財団 第2回 地域の交通環境対策推進者養成研修会における講師 タイトル「柏市におけるモビリティ・マネジメント パッケージを考える」 2012年10月
  - (5) 北陸信越運輸局交通環境部 北陸信越 EST 創発セミナーにおける講演 タイトル「低炭素型交通を目指す交通施策モビリティマネジメントの概要とポイント」2012年9月
  - (6) 八戸市 八戸中心街ターミナルモビリティセンター講習会における講演 タイトル「学校教育におけるモビリティ・マネジメントの意義と事例」 2012年9月
- ◆ 委員会(政府・地方自治体等)
  - 長岡市 長岡都市圏交通円滑化計画策定委員会 委員 2012年11月～
  - 静岡県 道路技術審議会 委員 2012年10月～
  - 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012年1月～
  - 横浜市都市整備局 「次世代の総合的な交通体系検討会」 委員 2011年12月～
  - 高岡市 地域公共交通活性化会議 委員 2010年9月～
  - 那珂市 地域公共交通活性化会議 委員 2012年2月～

- 国土交通省鉄道局都市鉄道課 「東京圏における鉄軌道整備の現状把握と今後の方向性の検討に関する調査委員会」 委員 2011年9月～
- 富山市役所 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 委員 2011年10月～
- 札幌市役所 「札幌らしい交通環境学習検討委員会」 委員 2011年8月17日～2014年3月31日
- 新潟県三条市 スマートウエルネス三条推進会議委員 委員 2011年9月～
- 静岡県庁 伊豆地域の道路整備のあり方検討会 委員 2011年7月～
- 龍ヶ崎市公共交通活性化協議会 委員
- モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 交通エコロジー・モビリティ財団 2009年1月～
- 国土交通省運輸審議会 運輸安全マネジメント部会 専門委員(2008年4月～)
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008年10月～
- 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師
- 交通政策審議会 環境部会 臨時委員、国土交通省(2007年4月～)
- EST 普及推進委員会 委員 主催：交通エコロジー・モビリティ財団

氏名	谷口 守	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	都市地域計画，交通計画，環境計画		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画実習／現代都市環境論／都市構造論／交通政策論／総合科目「都市・地域・環境を探る」

大学院前期課程 都市計画の課題と方法／社会資本ストック管理政策

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 12人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「エクメーネ・リサーチェンスの新体系構築」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「サイバースペースを考慮したトータルスペース・マネジメント手法の開拓」(代表)

科学研究費 基盤研究(A)「交通まちづくりの計画手法に関する研究」(分担)

研究助成金 「新しい情報通信技術を活かした地域再生策の研究」

テレコム先端技術研究支援センター(財)(代表)

委託研究 「震災による買い物環境の変化と、将来に向けた買い物利便性の確保と向上について」(代表)

福島県いわき市：大学等と地域の連携したまちづくり推進事業

研究助成金 「都市再構築に向けた被災地域の不動産流通研究」(代表)

(社)不動産流通経営協会

◆ 著書・論文等：

著書

国土交通省鉄道局監修、鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル改訂に関する調査検討委員会：鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル、2012年改訂版、運輸政策研究機構、2012.9.

## 査読付き論文

- 安立光陽・鈴木勉・谷口守：コンパクトシティ形成過程における都市構造リスクに関する予見、土木学会論文集 D3、Vol. 68、No. 2、pp. 70-83、2012. 4.
- 神田佑亮・谷口守・尾高慎二・佐藤貴行：職場MMの継続的展開の有効性に関する実証的研究、交通工学論文報告集、Vol. 32、CD-Rom、2012. 9.
- 谷口守・落合淳太：住宅街区のスマートグリッド導入適性に技術革新が及ぼす影響、不動産学会学術講演会論文集、No. 28、pp. 29-38、2012. 10.
- 谷口守・肥後洋平・落合淳太：都市計画マスタープランに見る低炭素化のためのコンパクトシティ政策の現状、環境システム研究、Vol. 40、pp. 395-402、2012. 10.
- 伊勢晋太郎・谷口守：持続可能性指標の継続実態に関する研究、環境システム研究、Vol. 40、pp. 403-410、2012. 10.
- 谷口守・山口裕敏：他地域に対する市民レベルの援助実態とその参加要因に関する研究、－東日本大震災をケーススタディとして－、都市計画論文集、No. 47-3、pp. 457-462、2012. 11.
- 谷口守・山口裕敏・土居千紘：「好きな教科」と他地域援助の関連分析、－東日本大震災をケーススタディとして－、土木学会論文集 H(教育)、Vol. 68、No. 1、pp. 23-27、2012. 12.
- 宮木祐任・谷口守：自己評価制度導入のもとでの自治体の政策評価実態、－まちづくり交付金における評価指標数値の設定とその乖離－、土木学会論文集 D3、Vol. 68、No. 5、pp. 45-54、2012. 12.
- 植田拓磨・山室寛明・谷口守：サイバースペースへの買物行動移行特性とその要因、土木学会論文集 D3、Vol. 68、No. 5、pp. 541-550、2012. 12.

## 論説

- 谷口守：スマートシティは私たちのライフスタイルをどう変えるのか、－都市計画から見てきたスマートシティの条件－、TELESCOPE MAGAGINE、Vol. 1、2012. 4.
- 谷口守・飯野公央：交通需要予測に頼らない「縁結び型」松江交通まちづくり、Urban Study、Vol. 54、pp. 1-15、2012. 6.
- 谷口守：都市交通計画から見た不動産学研究的課題、日本不動産学会誌、Vol. 26、No. 1、pp. 35-37、2012. 6.
- 谷口守：これからの都市計画、p. 32、日刊工業新聞、2012. 7. 31.
- 谷口守：ガッカイへ行こう、都市計画、Vol. 61、No. 5、pp. 110-111、2012. 10.
- 谷口守：ここがおかしい!?!、日本のスマートシティ、日経ビジネス ON LINE、NEXT NIPPON、2012. 10.
- 谷口守：スマートシティは地方都市から、(特集 これからのまちづくり)、地銀協月報、第 629 号、pp. 16-22、2012. 11.

谷口守：これからの都市政策を考える、p. 3、建設産業新聞、2012. 12. 14.  
谷口守：次の時代の都市再生を考える、MINTO、Vol. 40、pp. 43-45、2012. 12.  
河合淳也・谷口守・中川博之・和田信貴：スマートシティは都市を変えるか？、住宅土地経済、No. 87、pp. 2-18、2012. 12.  
谷口守・森英高：「仮」の暮らしをどのような交通で支えるか、日本不動産学会誌、Vol. 26、No. 4、pp. 47-51、2013. 3.

◆ 学会発表等：

口頭発表

宮木祐任・森英高・佐藤剛・古山守夫・高橋護・谷口守：東松島市の復興計画策定過程における住民意見の変容について、一住民説明会におけるキーワード分析を通じて一、都市計画学会総会、ポスターセッション、2012. 5.  
神田佑亮・飯野公央・谷口守・尾高慎二・西ノ原真志：地方都市でのモビリティ・マネジメント施策の実践における物語研究、土木計画学研究・講演集、Vol. 45、2012. 6.  
尾高慎二・神田佑亮・西ノ原真志・飯野公央・谷口守：地方都市圏におけるモビリティ・マネジメント施策の継続効果の分析、土木計画学研究・講演集、Vol. 45、2012. 6.  
片岸将広・谷口守・金山英樹・小滝省一：コンパクトシティ富山の「お団子」の整備方針と課題、土木計画学研究・講演集、Vol. 45、2012. 6.  
飯野公央・西ノ原 真志・井場英雄・足立保・尾高慎二・神田佑亮・谷口守：松江都市圏における市民と連携した MM の継続と展開、～持続可能な市民 MM への発展に向けた挑戦～、第 7 回 JCOMM、2012. 8.  
谷口守・山口裕敏・山室寛明：他地域援助に配慮した個人の類型化とその援助傾向に関する研究、土木計画学研究・講演集、Vol. 46、2012. 11.  
谷口守・肥後洋平・落合淳太：地方分権時代における都市計画を通じた自動車 CO<sub>2</sub>排出量低減政策の可能性、土木計画学研究・講演集、Vol. 46、2012. 11.  
宮木祐任・根本拓哉・谷口守：集落に立地する都市サービスの長期的変遷に関する研究、土木計画学研究・講演集、Vol. 46、2012. 11.  
伊勢晋太郎・森英高・谷口守：新幹線新設駅の周辺一体整備に関する一考察、土木計画学研究・講演集、Vol. 46、2012. 11.

◆ その他：日本不動産学会賞（論文賞）

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

テニユア・トラック普及・定着事業、若手研究者育成推進委員、戦略室担当、  
学務・カリキュラム委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
カリキュラム委員長

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員）

IFHP(International Federation of Housing and Planning) 評議員  
日本都市計画学会 学術委員会 委員長  
Urban Transport 編集委員  
交通工学研究会 学術委員  
International Planning Studies 編集委員  
日本モビリティ・マネジメント会議 理事  
土木学会 交通まちづくりの実践研究小委員会 副代表、制度設計部会長

- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

内閣府 「今後の跡地利用施策の展開方策に関する検討委員会」委員  
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画制度小委員会」委員  
国土交通省 「先導的都市環境形成促進事業に係るアドバイザー会議」委員  
環境省 「中長期ロードマップ調査 地域づくりWG」委員  
環境省 「土地利用・交通分野の低炭素効果の推計手法研究会」委員  
環境省 「交通低炭素化技術開発分野分科会」委員  
国土交通省中国地方整備局 「明日の旭川を語る会」委員  
京都府 「京都府広域交通インフラ検討委員会」委員  
兵庫県 「第7回区域区分見直し基本方針の検討に係る懇談会」委員  
福岡県 「福岡県都市計画基本方針検討委員会」委員  
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」委員長  
埼玉県 「埼玉県都市計画審議会」委員長  
倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」議長  
つくば市 「つくば市公共空間活用検討会」委員長  
さいたま市「さいたま市転入者モビリティマネジメント庁内推進委員会」アドバイザー  
富山市 「富山市集約型都市構造実現のための社会資本整備および管理のあり方に関する検討懇談会」委員  
計量計画研究所(財)「道路交通センサスに関する懇談会」委員  
都市づくりパブリックデザインセンター(財)「健康・医療・福祉政策及びコミュニティ

活動と連携したまちづくり検討調査研究会」委員  
道路環境・道路空間研究所「道路空間高度化研究会」委員  
交通エコロジー・モビリティ財団「エコ通勤の促進に関する表彰選考委員会」委員  
他

氏名	張 勇兵	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	分散処理、通信ネットワーク		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

【社会工学類】

経営工学情報実習、情報ネットワーク、情報技術実験、社会工学実習、社会工学における戦略的思考・理論・実験および演習

【社会システム工学専攻】

情報ネットワーク論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人、社会システム工学専攻 6人、研究生1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

無線センサーネットワークにおける効率的なデータ収集方法に関する研究に取り組み、センサーのカバー領域や木に限定しない階層化など、新たな構築法を開発することにより、従来方法よりネットワークの平均寿命を大きく延長することができ、その研究成果は IEEE 主催の国際会議および Elsevier 社国際学術雑誌に発表された。また、高木教授が代表研究者である科学研究費基盤（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」の分担者を務めた。

◆ 著書・論文等：

- [1] Y. Tao, Y. Zhang, and Y. Ji: Flow Balanced Routing for Multi-Hop Clustered Wireless Sensor Networks, *Ad Hoc Networks Journal*, Vol. 11, No. 1, pp. 541-554 (January 2013).
- [2] H. Takagi, Y. Kanai, Y. Zhang, and K. Misue: Analysis and Visualization of Inpatient Flow at the University of Tsukuba Hospital, accepted for presentation in 2013 Frontiers in Service Conf., Taipei, Taiwan (Jul. 2013).
- [3] Y. Tao and Y. Zhang: Hierarchical Flow Balancing Protocol for Data Aggregation in Wireless Sensor Networks, *Proc. IEEE Computers, Communications and IT Applications Conf. (ComComAp 2012)*, 6 pages, Hong Kong (Jan. 2012).

- [4] Takagi, H. Kurata, Y. Okada, M. Shigeno, A. Yoshise, Y. Zhang, and K. Yamashita: Progress in the Healthcare Service Innovation Project at the Tsukuba University Hospital, *Proc. SRII Global Conf. 2012*, San Jose, California, July 22-27, 2012.

◆ その他 :

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
  - 【システム情報工学研究科】  
部局 (システム情報系) 情報環境委員会副委員長、理工学群ネットワーク委員会委員長
  - 【筑波大学】  
ネットワーク管理委員会委員、インシデント対応室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
  - 【社会工学類】  
コンピュータ委員会委員長、第3学群サブネット委員会委員
  - 【経営・政策科学専攻】  
文修サテライト運営委員
  - 【社会システム・マネジメント専攻】  
コンピュータ委員会委員長

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ Associate Editor (2007~), *Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications*, Springer.
- ◆ Program Committee, *IEEE Int. Conf. Computer Communications (INFOCOM2012)*, Orlando, Florida, March 25-30, 2012.
- ◆ Program Committee, *Symposium on Wireless Networking, IEEE Int. Conf. Commun. (ICC2012)*, Ottawa, Canada, June 10-15, 2012.
- ◆ Program Committee, *Symposium on Ad-hoc and Sensor Networking, IEEE Int. Conf. Commun. (ICC2012)*, Ottawa, Canada, June 10-15, 2012.

氏名	堤 盛人	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	応用空間統計学，土木計画学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ・プロジェクトの評価とファイナンス・都市計画マスタープラン策定実習（共同）・東京の都市学（分担）・都市構造論（分担・責任者）

大学院 プロジェクト評価論・プロジェクト評価演習（共同）

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 3人 社会システム工学専攻 3人

社会システム・マネジメント専攻 2人

### ◆ 指導学生の受賞：

2012年5月 爲季和樹 平成24年度写真測量学会年次学術講演会論文賞（「茨城県南地域における広域放射線量分布図の作成」）

2012年5月 村上大輔 日本測量協会「測量技術奨励賞」（賞金20万円 「Krigingを用いた実用的な面補間法」）

2012年7月 瀬谷創 Asian Real Estate Society & American Real Estate and Urban Economics Association Joint International Conference, “PhD Merit Award”（Automatic Selection of a Spatial Weight Matrix in Spatial Econometrics: Application to a Spatial Hedonic Approach）

2012年11月 村上大輔 Finalist in The 59th North American Regional Science Council Graduate Student Paper Competition（該当2名 賞金\$150 副賞 ArcGIS for desktop advanced student edition. Daisuke Murakami: Eigenvector-based spatial filtering for continuous space: a harmonic-regression-based practical spatial filter specification）

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『空間従属性を考慮した新たな面補間法の開発とその実用化』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究 『新たな広域的宅地評価方法に関する研究』

研究代表者 国土交通省国土技術政策総合研究所（審議会等公募型） 受託研究 『道路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発』

研究代表者 株式会社タス 奨学寄付金 『不動産証券化サービスに関する研究』

研究分担者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(A) 『地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術の戦略的活用』(代表：鈴木勉)

研究分担者 科学研究費補助金・基盤研究(B) 『エクメーネ・リサーチエンスの新体系構築』(代表：谷口 守)

◆ 著書・論文等：

i) 招待論文

1) 堤盛人・瀬谷創：「土木計画における応用空間統計学の可能性」, 『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol. 68, No. 5 (土木計画学研究・論文集第 29 卷), (I\_1-I\_20), 2012.

ii) 審査つき論文

1) 爲季和樹・堤盛人：「時空間ランダム効果モデルによる広域放射線量分布図作成の可能性」, 『応用測量論文集』, Vol. 23, pp. 18-27, 2012.

2) 堤盛人・瀬谷創：「応用空間統計学の二つの潮流：空間統計学と空間計量経済学」, 『統計数理』, Vol. 60, No. 1, 特集「時空間統計解析：新たなる分野横断的展開」, pp. 3-25, 2012.

3) 爲季和樹・堤盛人：「フロー間の空間的相関を考慮した負の二項重力モデル」, 『統計数理』, Vol. 60, No. 1, 特集「時空間統計解析：新たなる分野横断的展開」, pp. 121-130, 2012.

4) 堤盛人・宮城卓也・山崎清：「開発者行動を考慮した応用都市経済モデル」, 『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol. 68, No. 4, pp. 333-343, 2012.

5) 堤盛人・山崎清・小池淳司・瀬谷 創：「応用都市経済モデルの課題と展望」, 『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol. 68, No. 4, pp. 344-357, 2012.

6) Morito Tsutsumi and Kazuki Tamesue: Intraregional Flow Problem in Spatial Econometric Model for Origin-Destination Flows, Environment and Planning B, Vol. 39, pp. 1007-1016, 2012.

7) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Practical Spatial Statistics for Areal Interpolation, Environment and Planning B, Vol. 39, pp. 1017-1034, 2012.

8) Takayuki Ueda, Morito Tsutsumi, Shinichi Muto and Kiyoshi Yamasaki: Unified Computable Urban Economic Model, The Annals of Regional Science, Vol. 50, Issue 1, pp. 341-362, 2013.

9) Hajime Seya, Yoshiki Yamagata, and Morito Tsutsumi: Automatic Selection of a Spatial Weight Matrix in Spatial Econometrics: Application to a Spatial Hedonic Approach, Regional Science and Urban Economics, Vol. 43, Issue 3, pp. 429-444, 2013.

◆ 学会発表等：

1) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Mapping radiation dose with fixed rank filtering, presented at Japan Geoscience Union Meeting 2012, Makuhari Messe

- International Conference Hall, Chiba, Japan, 22 May 2012. ("H-TT (Human Geoscience (H) / Technology & Techniques(TT))" 07 GIS) (講演番号:HTT07-05)
- 2) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Geostatistical sampling optimization: An empirical study using Officially assessed land prices, presented at the Japan Geoscience Union Meeting 2012, Makuhari Messe International Conference Hall, Chiba, Japan, May 22, 2012. (" H-TT (Human Geosciences(H) / Technology &Techniques(TT)) " 007 GIS) (講演番号 :HTT007-10)
- 3) 爲季和樹・堤盛人:「茨城県南地域における広域放射線量分布図の作成」,『日本写真測量学会 平成 24 年度 年次学術講演会 発表論文集』, pp. 141-144, 2011.
- 4) 村上大輔・堤盛人:「空間的な相関を考慮した新たな Dasymmetric 法」,『日本写真測量学会 平成 24 年度 年次学術講演会 発表論文集』, pp. 145-148, 2011.
- 5) 瀬谷創・堤盛人・山形与志樹:「空間計量経済学における空間重み行列の自動選択」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 45, (CD-ROM 講演番号 : 367), 2012.
- 6) 村上大輔・堤盛人:「固有ベクトル空間フィルタリングを用いた時空間内挿」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 45, (CD-ROM 講演番号 : 369), 2012.
- 7) 爲季和樹・堤盛人:「固有ベクトル空間フィルタリングを用いたゼロ過剰重力モデル」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 45, (CD-ROM 講演番号 : 368), 2012.
- 8) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Mapping Radiation Dose with Spatio-Temporal Random Effects Model, presented at the 2nd IMS-APRM (Institute of Mathematical Statistics Asia Pacific Rim Meeting), Tsukuba, Japan, July 2-4, 2012.
- 9) Hajime Seya, Yoshiki Yamagata and Morito Tsutsumi: Automatic Selection of a Spatial Weight Matrix in Spatial Econometrics: Application to a Spatial Hedonic Approach, presented at the AsRES & AREUEA Joint International Conference, Singapore, 7-10 July 2012. (PS4066)
- 10) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: A geostatistics-based spatial hedonic approach that considers interactions through a transportation network, presented at the AsRES & AREUEA Joint International Conference, Singapore, 7-10 July 2012. (PS4212 )
- 11) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Interdependence between land prices and population migration in Tokyo Metropolitan area, presented at the AsRES & AREUEA Joint International Conference, Singapore, 7-10 July 2012. (PS7051 )
- 12) Kazuyuki Fujii, Yoko Hozumi, Tomoyasu Iida and Morito Tsutsumi: Statistical Analysis of the Tokyo Rental Apartment Market, presented at the AsRES & AREUEA Joint International Conference, Singapore, 7-10 July 2012. (B6088)
- 13) Yoshiki Yamagata , Daisuke Murakami, Hajime Seya and Morito Tsutsumi: 3D urban green view influences condominium price? Hedonic analysis using airborne LiDAR

imagery in Yokohama, presented at the AsRES & AREUEA Joint International Conference, Singapore, 7-10 July 2012. (A4029)

14) Morito Tsutsumi, Masataka Miyashita, Koji Naraoka, Yasuo Jinno and Makoto Suzuki: On the Utilization and Application of Geographic Information to Office Rent Valuation, presented at the AsRES & AREUEA Joint International Conference, Singapore, 7-10 July 2012. (F1139)

15) 村上大輔・堤盛人:「空間統計モデルを用いた公示地価・都道府県地価調査の評価地点の配置問題」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 21, E-2-1, (CD-ROM), 2012.

16) 爲季和樹・瀬谷創・山形与志樹・堤盛人:「昭和期以前の関東地方の土地利用分布図の作成」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 21, F-2-2, (CD-ROM), 2012.

17) 村上大輔・山形与志樹・瀬谷創・堤盛人:「東京都市圏における業務交通トリップの空間構造の分析とマッピング」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 46, (CD-ROM 講演番号: 22), 2012.

18) 瀬谷創・山形与志樹・堤盛人:「コーホート法に基づく小地域における人口推計」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 46, (CD-ROM 講演番号: 27), 2012.

19) 黒田翔・堤盛人:「新たな AZP-SA による地域分割を考慮した住宅データの分析」, 日本不動産金融工学学会, 2月23日, 2013, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋) (大会予稿集 pp. 1-11) .

20) 村上大輔・山形与志樹・瀬谷創・堤盛人:「3D visibility index の構築とそのヘドニック分析への適用:横浜市を対象として」, 日本不動産金融工学学会, 2月23日, 2013, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋) (大会予稿集 pp. 29-37) .

◆ その他: 論説

1) 小池 淳司・石倉 智樹・堤 盛人:「Editorial 一特集『土木計画における経済均衡モデル研究の最新動向: 応用一般均衡モデルと応用都市経済モデル』」,『土木学会論文集 D3 (土木計画学)』, Vol. 68, No. 4, 2012, pp.285-290, 2012.

2) 堤盛人:「資産としての道路の「金銭的価値」を考える ～維持管理のアセットマネジメントの導入に向けて～」,『道路』, Vol. 863, pp. 24-27, 2013.

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

全学: 国立大学法人筑波大学資金運用委員会 委員

システム情報工学研究科: 広報委員会委員長

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

社会システム・マネジメント専攻/社会システム工学専攻/経営・政策科学専攻:

広報委員会委員長 戦略企画室 (経営政策) 委員 社会工学ルネサンス検討会委員

社会工学類: 広報委員会委員

#### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員，論文査読等）

- 1) 日本写真測量学会 理事（5月まで）
- 2) 日本写真測量学会 評議員（5月から）
- 3) 日本不動産金融工学学会 評議員
- 4) 土木計画学研究委員会土木計画学・学術小委員会委員
- 5) 社団法人日本測量協会 評議員
- 6) 社団法人日本測量協会 「地理空間情報専門技術委員会」 委員
- 7) 査読委員/査読者：土木計画学研究・論文集 Vol. 29, ジャレフ・ジャーナル（不動産ファイナンス・不動産経済学研究），土木学会論文 D3, 運輸政策研究，都市計画学会，
- 8) 表彰等の審査員：都市住宅学会，日本不動産学会

◆ 社会的活動

- 1) 総務省 『政策評価・独立行政法人評価委員会』 臨時委員
- 2) 国土交通省 『国道(国管理)の維持管理等に関する検討会』 委員
- 3) 国土交通省 『世代間資産移転の促進に関する検討会』 委員
- 4) 国土交通省 『用途規制の経済分析に関するワーキンググループ』 委員
- 5) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員
- 6) 国土地理院 『電子国土賞選考委員会』 委員
- 7) 内閣府 『都市再生の推進に係る有識者ボード 経済効果検討ワーキンググループ』 委員
- 8) 環境省 『土地利用・交通分野の低炭素効果の推計手法研究会』 委員
- 9) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員
- 10) 相模原市 『小田急多摩線の延伸計画に関する研究会』 委員

◆ その他兼業

株式会社タス 非常勤顧問

氏名	中村 豊	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	意思決定理論、理論経済学、数理心理学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
社会工学類 微積分Ⅱ、意思決定論  
大学院（社会システム工学専攻）ミクロ経済学、意思決定理論
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 2人/社会システム工学専攻 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 挑戦的萌芽研究「近代効用理論における公理的基礎の再構築—統一的な公理体系の構築に向けて—」（代表）
- ◆ 著書・論文等：  
Nakamura, Yutaka (2013) Weak or strong representations under risk、Working paper
- ◆ 学会発表等：  
藤井陽一朗、中村豊：エクイティプレミアム・パズル：経済危機と労働所得リスクの考察（日本経済学会 2012 年度春季大会：北海道大学にて発表）
- ◆ その他：

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
システム情報系人事委員会委員、システム情報系運営委員会委員、システム情報工学研究科運営委員会委員、社会工学類長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
3 専攻合同委員会運営委員会委員

## 4. 学外の社会貢献

- ◆ Journal of Mathematical Psychology の Action Editor

氏名	永易 淳	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	国際金融論、計量経済学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類            国際金融論/経済政策分析/経済学入門 I/グローバル・エリア演習  
 大学院        国際金融論

◆ 指導学生数：

0人（8月より長期海外出張のため）

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

全国銀行学術振興財団「ダイナミック・ファクター・モデルによる国内金融市場統合の分析」（代表）  
 データバンク（分担）

◆ 著書・論文等：

- [1] Common factors of the exchange risk premium in emerging European markets, 2012, *Bulletin of Economic Research* 64(s1) 71-85, with J. Byrne.
- [2] Financial innovation and regional money, 2012, *Applied Economics* 44(35) 4617-4629.
- [3] The threshold consumption correlation-based approach to international capital mobility: evidence from advanced and developing countries, 2012, *Structural Change and Economic Dynamics* 23 256-263.
- [4] Regional money and demographic changes, 2012, *Applied Economics Letters* 19(10) 939-942.
- [5] A dynamic factor approach to domestic capital mobility, forthcoming, *Empirical Economics*.
- [6] The Forward premium puzzle and risk premiums, 2012, MPRA Paper 42472, University Library of Munich, Germany.
- [7] Long-run implications of the covered interest rate parity condition: evidence

during the recent crisis and non-crisis periods, 2012, MPRA Paper 41566, University Library of Munich, Germany.

[8] Structural breaks in forward premiums and implications for the covered interest rate parity condition: evidence during the recent crisis and non-crisis periods, 2013, 多目的統計データバンク年報 90, 45-67.

- ◆ 学会発表等：  
春季日本経済学会  
春季日本金融学会

- ◆ その他：

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
全学データバンク委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
学類運営委員（長期海外出張のため8月まで）

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 国際協力銀行（JBIC）コンサルタント
- ◆ Annual Meeting of the Scottish Graduate Programme in Economics, Discussant
- ◆ International advisor for a PhD student (University of Strathclyde, UK)
- ◆ University of Strathclyde(UK) 客員研究員
- ◆ 査読 Economic Modelling, Empirical Economics, Journal of International Financial Markets, Institutions and Money など

氏名	橋本 昭洋	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	社会システム，システム評価決定論		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
社会工学類 評価と決定／線形代数 I／戦略行動システム演習  
社会システム工学専攻／経営・政策科学専攻 システム評価論
- ◆ 指導学生数：  
社会工学類 3人／社会システム工学専攻 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 基盤研究(C) 「国の安定性の量的評価：冷戦終結前後の実証分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：  
Haneda, S., Hashimoto, A. and Tsuneyoshi, T., Evaluating administrative efficiency change in the post-merger period: A study on Ibaraki prefecture (1979-2004). *International Regional Science Review* 35(2), 237-262, 2012.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：  
Biographee Marquis Who's Who in the World 2012 (29<sup>th</sup> ed.)

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
システム情報系 研究者倫理検討委員会委員長  
全学 教養教育機構員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
社シマ・社シス・経政3専攻 運営委員，カリキュラム委員

社会工学類 カリキュラム委員長

出張講義 埼玉県立蕨高校, 2012/11/22

#### 4. 学外の社会貢献

◆ レビューア

*Socio-Economic Planning Sciences, Research Policy, Applied Mathematics and Computation, Evaluation and Program Planning, Mathematical Problems in Engineering*

◆ 独立行政法人 物質・材料研究機構 契約監視委員会委員長

氏名	八森 正泰	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習／情報リテラシー／シミュレーション／情報技術実験／特設講義（民法）（世話人）／特設講義（商法）（世話人代理）／国際企業論（世話人）／応用確率過程（世話人）／総合科目 I「卒業生によるオムニバス講義（社会人としていかに生きるか）」（世話人）

大学院 実解析（社会システム工学専攻）／ビジネス数学（経営・政策科学専攻）

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 1名／社会システム工学専攻（研究生 2名）／社会システム・マネジメント専攻 1名（研究生 1名）

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究（B）「単体的複体の部分構造および極小反例に基づく位相幾何学的組合せ論の研究」（代表）

科学研究費 基盤研究（C）「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」（分担、代表：繁野麻衣子）

科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」（分担、代表：吉瀬章子）

### ◆ 著書・論文等：

複雑ネットワークを厳密な数学で（リック・デュレット著「ランダムグラフダイナミクス」書評），数学セミナー，2012年8月号，p. 88.

四次元の世界ってどうなってるの？（根上生也著「四次元が見えるようになる本」書評），数学セミナー，2013年3月号，p. 92.

### ◆ 学会発表等：

日本数学会 2013年度年会，京都大学，2013年3月20-23日，「グラフ上の離散ボロノイゲームと関連するゲームのナッシュ均衡」（繁野麻衣子氏・竹原令依子氏と共著）.

応用数学会 2013 年研究部会連合発表会, 東洋大学, 2013 年 3 月 14-15 日, 「任意の制限がシェラブルな単体的複体と純骨格」(柏原賢二氏と共著).

2012 年度応用数合同研究集会, 龍谷大学, 2012 年 12 月 20-22 日, 「直径 2 のグラフ上の離散ボロノイゲーム」(繁野麻衣子氏・竹原令依子氏と共著).

第 24 回位相幾何学的グラフ理論研究集会, 横浜国立大学みなとみらいキャンパス, 2012 年 11 月 17-18 日, 「グラフ上の離散ボロノイゲームとナッシュ均衡」(繁野麻衣子氏・竹原令依子氏と共著).

日本オペレーションズ・リサーチ学会 2012 年秋季研究発表会, 名古屋・ウインクあいち, 2012 年 9 月 12-13 日, 「グラフ上の離散ボロノイゲームにおけるナッシュ均衡」(繁野麻衣子氏・竹原令依子氏と共著).

組合せ論サマースクール, 松江・すいてんかく, 2012 年 8 月 28-31 日, 「直径 2 のグラフ上の離散ボロノイゲーム」.

大阪組合せ論セミナー, 大阪市立大学文化交流センター・小セミナー室, 2012 年 6 月 15 日, 「任意の制限がシェラブルな単体的複体とオブストラクション」.

◆ その他 :

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

学類           カリキュラム委員、非常勤講師審査委員、1 年担任

大学院        障害学生支援室連絡窓口教員 (社会システム・マネジメント専攻)、カリキュラム委員会オブザーバー

### 4. 学外の社会貢献

◆ Graphs and Combinatorics 誌 Editorial board

◆ 「数学セミナー」誌 書評委員

◆ 組合せ数学セミナー (COMA ゼミ) 幹事

◆ JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏名	原田 信行	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 統計 I / 金融論
  - 大学院 応用計量経済学演習 / 社会経済演習
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 2名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費補助金 若手研究（B）「経済環境の激変と中小企業の役割」（研究代表者）
  - 筑波大学プレ戦略イニシアティブ「工学・デザイン・感性科学に基づく革新的プロダクトデザイン基盤の構築」（中核教員）
- ◆ 著書・論文等：
  - 原田信行「中小企業の知的財産」、『商工金融』2012年6月号、pp. 5-17、商工総合研究所、2012年6月

## 3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 社会工学関連3専攻広報委員会委員
  - 社会工学関連3専攻社会工学改組拡大ワーキンググループ
  - 社会工学類カリキュラム委員会委員
  - 社会工学類拡大カリキュラム委員会委員
- ◆ 受賞：
  - 平成24年度筑波大学システム情報系教育貢献賞

氏名	藤井 さやか	職名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任） 環境科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	都市計画，土地利用計画、まちづくり法制、住環境整備		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 総合科目・都市・地域・環境を探るⅠ・Ⅱ・Ⅲ／総合科目・Japic 連携リレー講義  
「日本の未来創生Ⅰ」／土地利用・地区整備計画／都市計画事例講義及び実習／アメニティ創造のまちづくり実習／総合演習 - 社会システム分析 - /

大学院前期課程 大学院共通科目・Japic 連携リレー講義「グローバル時代のトップランナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」／都市空間のフィールドワーク演習／国際交流ワークショップⅠ・Ⅱ／都市開発プロジェクト・マネジメント／MPP 特講Ⅲ「住宅・建築・まちづくりに関する今日的課題と対策」

指導学生数：

社会工学類：田野井雄吾、松浦きらら

環境科学専攻：仁井谷健

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 平成 24 年度 厚生労働省受託事業「高齢者居住を中心とした自治体間連携に関する調査・研究班」委員（三菱総合研究所）
- ・ 平成 22-24 年度 日本都市計画学会・共同研究組織「計画制度研究会」研究分担者（研究代表者・大方潤一郎）
- ・ 平成 22-24 年度科学研究費・基盤研究（B）・「都市プランナーの職能・専門性の変容と再構築に関する国際比較研究」研究分担者（研究代表者・有田智一）
- ・ 平成 22-24 年度科学研究費・基盤研究（C）・「協調・契約型都市再生手法に関する日独比較研究」研究分担者（研究代表者・大村謙二郎）
- ・ 平成 22-24 年度筑波大学革新的研究等支援プログラム（パイロットモデル）「学生協働・地場連携による筑波大学キャンパス・リノベーショングリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの融合」研究協力者（研究代表者・大澤義明）
- ・ プラチナ社会研究会大学連携 CCRC 分科会（三菱総合研究所）

### ◆ 著書・論文等：

- 阪口将太, 藤井さやか, 大村謙二郎「計画的住宅地の高齢化に対応した地区計画の運用柔軟化と見直しの方向性: 首都圏の戸建住宅地に着目して」都市計画論文集, 47-3, pp. 379-384, 2012
- 太田尚孝, Susanne ELFFERDING, 大村謙二郎, 有田智一, 藤井さやか「ドイツの都市計画における国際建築展 (IBA) の役割と存在意義に関する研究-IBA の歴史的発展と現代的な位置づけに注目して」都市計画論文集, 47-3, pp. 679-684, 2012
- 白田順士, 大村謙二郎, 藤井さやか「東京都心商店街における家族経営型店舗の都市環境変化への対応に関する研究-麻布十番商店街を事例として-」都市計画論文集, 47-3, pp. 715-720, 2012
- 藤井さやか (2013)「拡大する都市の建築紛争と縮小する都市の建築紛争」都市問題. 2月号. pp. 55-63.
- 王尾和寿, 温井達也, 藤井さやか: 震災時における情報入手と伝達方法の特性-茨城県つくば市でのアンケート調査を事例として, 地理情報システム学会講演論文集, 21, (CD-ROM), 2012 4)
- 藤井さやか (2012)「高齢化する計画的住宅地の住民による持続可能性の確保」日本建築学会持続可能な都市住宅地を実現する建築社会システムのあり方特別研究委員会報告集. pp. 80-83.
- 藤井さやか (2012)「西独の都市改造プログラムによる住宅団地再生の取り組み」日本建築学会持続可能な都市住宅地を実現する建築社会システムのあり方特別研究委員会報告集. pp. 102-105.
- ◆ 学会発表等:
  - ・ 「地区レベルの空間形成・再編とマネジメント」, 日本都市計画学会 2012年度(第47回)学術研究論文発表会ワークショップ『計画制度の現状・課題・改正方向の展望と課題』, 2012年11月10日, 弘前大学

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
  - ・ 全学 教育社会連携推進室室員
  - ・ 全学 筑波大学教育企画室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
  - 社会工学関連3専攻改組検討委員会

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動:
  - ・ 日本建築学会都市計画委員会 住環境マネジメント小委員会委員
  - ・ 日本都市計画学会 国際委員会委員
  - ・ 都市住宅学会 編集委員会委員

◆ 査読実績：

- ・ 日本建築学会 査読 2 本
- ・ 日本都市計画学会 査読 3 本
- ・ 日本都市計画学会国際委員会査読結果とりまとめ（英語論文） 5 本

◆ 学術指導・講師等：

- ・ 講座講師. 「まちづくりを楽しく体験してみませんか！」つくば市つくばまちづくり実践講座. 2013 年 2 月 26 日及び 3 月 3 日. つくば市吾妻交流センター.
- ・ つくば市都市計画課「つくば市地域まちづくり活動への支援に関する学術指導」
- ・ つくば市営繕・住宅課「つくば市地域まちづくり活動への支援に関する学術指導」

◆ 学外委員：

- ・ 鹿嶋市高松地区復興まちづくり計画策定委員会 委員
- ・ 茨城県再生可能エネルギー導入促進事業評価委員会 委員
- ・ 板橋区都市計画審議会最高限度高度地区等検討部会 委員
- ・ 板橋区都市計画審議会 委員
- ・ 財団法人 東京都防災・建築まちづくりセンター 理事
- ・ 浦安市都市計画マスタープラン検討委員会 委員
- ・ 墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会 臨時委員
- ・ 墨田区建築審査会委員
- ・ さいたま市都市計画審議会 委員
- ・ 八潮市都市計画審議会 委員
- ・ 柏市紛争調停委員会 委員
- ・ 柏市建築審査会委員
- ・ 三鷹市都市計画審議会 委員
- ・ 守谷市景観審議会 委員
- ・ 神奈川県土地収用事業認定審議会 委員 等

氏名	藤川 昌樹	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）， 環境科学専攻（兼任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の歴史／まちづくりと空間設計の歴史と思想／アメニティ創造のまちづくり実習／東京の都市学

大学院 都市形成史／都市遺産論／環境計画史

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 3人 /社会システム・マネジメント専攻 1人  
生命環境科学研究科 環境科学専攻 2人 /生命環境科学研究科 持続環境学専攻 3人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「江戸武家地の空間変容に関する文理統合的研究」(代表)

科学研究費 研究成果公開促進費 学術図書「萩藩江戸屋敷作事記録」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「北関東の町並みの建築的構成とその展開過程に関する研究」(代表)

科学研究費 基盤研究(A)「日本建築様式史の再構築」(分担)

科学研究費 基盤研究(C)「近代の橋本における製材と外材の流入」(分担)

科学研究費 基盤研究 (A)「東アジアにおける植物資源の高度循環利用に基づく居住環境の地域特性に関する研究」(分担)

科学研究費 基盤研究(A)「インドネシアの木造建築物保存に関する国際共同研究」(分担)

### ◆ 著書・論文等：

藤川昌樹編『江戸大名屋敷作事記録を読む』（「日本建築史の再構築」連続シンポジウム報告書7、全115頁、東京大学、2012年8月）

作事記録研究会編『萩藩江戸屋敷作事記録』（全568頁・附属屋敷絵図10点、中央公論美術出版、2013年1月）

藤川昌樹「地域の文化財建造物にゆっくと迫る危機」（『建築雑誌』1631、pp. 14-15、2012年4月）

藤川昌樹「重要伝統的建造物群保存地区における建築行為：真壁伝承館を事例に」（『利用の時代の歴史保全：保存・再生・活用の立脚点を考える』日本建築学会大会建築計画部門研究協議会資料、pp. 45-48、2012年9月）

藤川昌樹「関東地方・茨城県における被害・復興」（建築史学会2012年度大会記念シンポジウム「建築史学と災害」の記録、『建築史学』59、pp. 27-31、2012年9月）

藤川昌樹「新刊紹介『平安京の住まい』『平安京と貴族の住まい』（『建築史学』60、pp. 123-125、2013年3月）

江本硯・藤川昌樹「中国青島における貯水山公園の形成と変容」（『ランドスケープ研究』76(5)、pp. 421-426、2013年3月）

◆ 学会発表等：

劉冬梅・藤川昌樹「奉天における昭徳大街の都市デザイン」（『日本建築学会大会学術講演梗概集』[都市計画]、pp. 421-422、2012年9月）

江本硯・藤川昌樹「ドイツ時期の青島における都市緑地の形成と特徴」（『日本建築学会大会学術講演梗概集』[都市計画]、pp. 363-364、2012年9月）

◆ 講演ほか：

「茨城県における歴史的建造物の被害とその調査・復興」（藤川昌樹、建築史学会大会シンポジウム、東京藝術大学美術学部中央棟第一講義室、2012年4月21日）

「「方丈記」を考える-建築学の視点から-」（藤川昌樹、「「方丈記」を考える-文学・建築学・歴史学の視点から-」、朝日カルチャーセンター横浜、2012年5月8日）

「行政と専門家の連携：茨城県のとりくみ」（田村和浩・藤川昌樹、「大規模災害後の文化財建造物の復旧支援について考える」文化財ドクター派遣事業報告会、文部科学省東館3階講堂、2012年5月12日）

「あなたの住む町は何才ですか？」（藤川昌樹、夢ナビLIVE2012 [主催：FROMPAGE、後援：文部科学省]、インテックス大阪、2012年6月23日）

「歴史的都市環境：真壁の町並みと建築」（藤川昌樹、2012年度環境マイスタープログラム「つくばの都市環境」第5回、真壁伝承館ほか、2012年9月2日）

「常陸太田市鯨ヶ丘の町並みとその調査」（藤川昌樹、いばらき地域文化財専門技術者育



土浦市都市計画審議会会長  
土浦市公共事業再評価委員会委員長

- ◆ 兼業  
東京大学大学院新領域創成科学研究科

氏名	藤原 良叔	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	組合せ理論とその応用		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：  
実験数学，シミュレーション，経営工学情報実習，情報技術実験，情報リテラシー
- ◆ 指導学生数：  
研究生 1 名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：  
科学研究費 基盤研究（C）多重構造を持った組合せ的デザインの統合と統一的構成法の研究（代表）  
科学研究費 基盤研究（C）組合せ論的マルチメディア指紋符号とその不正者追跡アルゴリズムの研究（分担）  
科学研究費 基盤研究（C）コントロールをもつネステッド分割型 2 因子実験の構成法の研究（分担）
- ◆ 著書・論文等：  
D. Wu, R. Fuji-Hara, D. Li and S. Chen, The existence of doubly disjoint  $(mt+1, m, m-1)$  difference families, *Ars Combinatoria*, Vol 104 (2012) 197-209
- ◆ 学会発表等：  
Ryoh Fuji-Hara, Descendent Sets and Codes, The 2nd Japan- Taiwan Conference of Combinatorics and its Applications, 2012年11月10日~2012 年11月12日, Nagoya University, Japan
- ◆ その他：

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
就職委員会

## 4. 学外の社会貢献

Editor: Journal of Combinatorial Mathematics and Combinatorial Computing

Reviewing: American Mathematical Society Review

Refereeing: IEEE IT, J of Combinatorial Designs, Discrete Math その他

氏名	松原 康介	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	国際総合学類（専任），社会工学類（兼任）		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力プロジェクト		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 住まいと居住環境の計画／まちづくりと空間設計の歴史と思想／都市文化共生  
計画／国際社会の持続可能な発展  
大学院 市民参加論／居住環境計画論

◆ 指導学生数：

国際総合学類 7人／社会工学類 2人／社会システム工学専攻 1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費（若手A）「多様性と共生の知恵を育む中東・北アフリカ地域の都市計画史」  
（代表）

◆ 著書・論文等：

松原康介「番匠谷堯二の青年期における国内業績」日本建築学会計画系論文集、2012年4月、674号、931-940頁

松原康介「継続的な国際協力に基づく途上国の都市計画プロジェクトの発展過程」都市計画論文集、2012年11月、47-3号、673-678頁

Kosuke Matsubara, "The Work of Gyoji Banshoya in the Middle East and North Africa", Proceedings of the 15th International Planning History Society Conference (ISBN 978-85-8089-020-4), Sao Paulo, 2012, p. (Session 26-5).

Kosuke Matsubara, "A study on a restoration typed facade improvement for the Qasr Al Hajjaj street, Damascus", Proceedings of the 10th Conference of Asian City Planning, pp.102-111, Tokyo University, Jun.23, 2012.

Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation for Urban Planning in the Old Capital of Damascus -A case study of "Restoration-Type" Facade improvement-", Proceedings of the Association of European Schools of Planning (AESOP) 26th Annual Congress, Ankara, ABS ID 609, pp. 1-16, Jul.11-15, 2012.

Kosuke Matsubara, "Urban Planning Projects in Developing Countries based on International Cooperation-Focusing on the Case of Damascus, Syria", Proceedings of the 9th The International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), Gwangju, pp.356-365, Oct.22-25, 2012.

Kosuke Matsubara, "Jokamachi et Buraku", Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu et Inaga Shigemi (ed.), Pour un Vocabulaire de la spatialité Japonaise, Proceedings of the 43th International Research Symposium, International Research Center for Japanese Studies, pp.191-194, 2013.

◆ 学会発表等 :

Kosuke Matsubara, "Urban Conservation in the Middle East and North Africa", Guest Lecture for the seminar of Junichiro Asano, Toyohashi Tech, Jul.24, 2012.

Kosuke Matsubara, "Urban Conservation in the Middle East and North Africa", Guest Lecture for the seminar of Naoto Nakajima, KEIO-SFC, Nov.15, 2012.

Kosuke Matsubara, "A brief introduction of Multi-layered Basemap System for Middle Eastern Cities", The First International Conference of Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS), Tokyo University, Dec. 1-2, 2012.

Kosuke Matsubara, "Toward Urban Reconstruction Planning in Syria", The 5th Meeting of the Project "Human Mobility and Multi-Ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies", TUS-ILCAA(Tokyo), Feb.1-2, 2013.

Kosuke Matsubara, "Japanese Cooperation on Earthquake Disaster Risk Management for Almaty -Toward an Interactive cooperation-", International Workshop in Kazakhstan University, Almaty, Mar. 16, 2013.

松原康介「シリアにおける戦災復興都市計画の展望」、中東研究会（主査・立山良司防衛大学校教授）、東洋英和女学院大学大学院棟、2013年3月28日

松原康介「モロッコの歴史都市 フェスの保全と近代化」、2013年学芸セミナー、学芸出版社主催、地中海アーバニズム研究会・京都大学中嶋研究室共催、2013年3月29日

◆ その他：なし

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

社会・国際学群全学FD委員

北アフリカセンター学内共同研究員

中央アジア事務所運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 国際総合学類運営委員
  - 国際総合学類FD委員長
  - 国際総合学類クラス担任（2年生）
  - 社会システム・マネジメント専攻FD委員
  - 社会システム・マネジメント専攻学生相談室員

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 主な共同研究
  - 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員  
（中東都市社会における人間移動と多民族・多宗教の共存プロジェクト）
  - 国際日本文化研究センター共同研究員  
（仕掛けと概念：空間と時間の日仏比較建築論プロジェクト）
  
- ◆ 学会活動
  - 日本都市計画学会 学術委員 国際委員
  - 国際都市計画史学会
  - 国際開発学会
  - 日本建築学会 論文査読委員
  - 日本中東学会
  - 地中海学会
  - 日仏東洋学会 広報担当幹事

氏名	繆瑩	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	組合せデザイン理論、情報セキュリティ、情報通信、遺伝子情報解析		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 社会工学実習／線形代数 I／線形代数 II／情報ネットワーク
  - 大学院 情報セキュリティ管理
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 2人
  - 社会システム工学専攻 1人（H25年2月から）
  - 社会システム・マネジメント専攻 2人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤研究 (C) 「組合せ論的マルチメディア指紋符号とその不正者追跡アルゴリズムの研究」(代表)
  - 科学研究費 基盤研究 (C) 「多重構造を持った組合せ的デザインの統合と統一的構成法の研究」(分担者)
- ◆ 著書・論文等：
  - [1] M. Cheng, L. Ji and Y. Miao, Separable codes, IEEE Transactions on Information Theory 58 (2012), 1791-1803.
- ◆ 学会発表等：
  - [1] Y. Miao, Fingerprinting codes and related bipartite graphs with high girth, School of Mathematical Sciences, Suzhou University, Suzhou, China, March 19, 2013.
  - [2] Y. Miao, Digital fingerprinting and related topics, 2012 International Workshop on Discrete Mathematics, Fuzhou University and Wuyi Mountain, Fujian Province, China, Dec. 8-10, 2012.
  - [3] Y. Miao, Anti-collusion properties of fingerprinting codes, The 2nd Japan-Taiwan Conference of Combinatorics and its Applications, E&S Hall, Nagoya University, Nagoya, Japan, Nov. 10-12, 2012.
- ◆ その他：
  - システム情報系教育貢献賞

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：  
システム情報工学研究科 FD 委員長  
全学 FD 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：  
社会工学類 学生担当教員  
大学院 FD 委員長

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 -- present.
- ◆ Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 -- present.
- ◆ Editor: Journal of the Indian Society of Agricultural Statistics, August 2009 -- present.

氏名	村上 暁信	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任），持続環境学専攻（兼任）		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻（専任），社会システム工学専攻（専任）， 経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	緑地環境学，都市農村計画学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類	都市環境保全計画，都市計画マスタープラン実習，社会工学実習， 現代都市環境論，東京の都市学，総合科目「都市・地域・環境を探 る」
大学院前期課程	都市景観論，景観計画論，環境科学実習

### ◆ 指導学生数：

社会工学学類	3人
社会システム工学専攻	2人
環境科学専攻	5人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科学研究費補助金 若手研究 (A) 「樹冠表面温度を利用した都市気温分布図の作成と緑地の気候緩和機能の分析」(代表)
- 共同研究「横浜駅周辺のヒートアイランド対策に係る共同研究」(相手方機関：横浜市)(代表)
- 委託研究 「「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりの実装」(独立行政法人科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)(研究開発プロジェクト「いのちを守る沿岸域の再生と安全・安心の拠点としてのコミュニティの実装」 研究代表者：石川幹子)(分担)
- 人間文化研究機構・総合地球環境学研究所 Full Research 研究プロジェクト 「都市をめぐる循環と多様性：人類と地球環境を架橋する巨大で複雑なシステムの未来可能性」(分担)

### ◆ 著書・論文等：

- 王彦，村上暁信：下草管理が里山の夜間冷気の移流に与える影響．ランドスケープ研究，75(5)，543-546，2013

- 村上暁信, 佐藤理人, 原山祐太郎: ヒートアイランド緩和効果からみた環境指標としての緑被率の有効性. 日本都市計画学会学術研究論文集, 47, 265-270, 2012
- 村上暁信: 都市における自然エネルギーとランドスケープ (特集 自然エネルギーとランドスケープ: ランドスケープが拓く自然エネルギーを活かした国土の未来像). ランドスケープ研究, 76(3), 208-211, 2012

◆ 学会発表等:

- Murakami, A.: Green infrastructure and urban heat island in Tokyo. The first MLFP Workshop in Adelaide (講演, パネルディスカッション・パネラー), 2012. 9. 18
- 村上暁信: 次の10年に向けての農村計画学. 農村計画学会30周年記念シンポジウム「学会30年の歩みと今後10年の展望」(講演, パネルディスカッション・パネラー), 2012. 7. 8

◆ その他:

- 日本造園学会奨励賞 (研究論文部門) (2012年5月)
- 日本環境共生学会ポスター優秀発表賞 (2012年9月)

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

- 環境科学専攻 JDS 委員, 部屋利用 WG 委員, 教育プログラム委員
- 学類 カリキュラム委員
- SSM カリキュラム委員

### 4. 学外の社会貢献

- 日本学術会議連携会員 (第22期)
- 内閣府総合科学技術会議 グリーンイノベーション戦略協議会構成員
- 「横浜市エキサイトよこはま22環境検討部会」委員
- 守谷市都市計画審議会委員
- JICA 研修 (対象国: シリア) における講演 (村上暁信: Urban Green Space Planning) 2012. 01. 27
- つくば市環境マイスター講義実習担当, 2012. 07. 07
- 日本学術会議緊急提言 (「ひと」と「コミュニティ」の力を生かした復興まちづくりのプラットフォーム形成) 共同執筆 2012. 12. 05

氏名	桃田 朗	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	マクロ経済理論、人口経済学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 微積分 I、少子・高齢化社会における社会経済システム、公共システム演習
  - 大学院 マクロエコノミクス、財政政策
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 1人

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤研究 (C) 「人口減少社会のもとでの経済システムについての理論的考察」  
(代表)
  - 科学研究費 基盤研究 (C) 「現代の政策課題と動学的マクロ経済学の応用可能性」(分担)
  - 科学研究費 基盤研究 (C) 「ユーザー・チャージと世代間差別に関する研究」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
  - Akira Momota, “Population Aging and Sectoral Employment Shares,” *Economics Letters*, 115(3), 527-530, 2012.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

## 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
  - なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
  - 学類 クラス担任（1年生）
  - 大学院 合同運営委員会、博士論文委員

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 論文査読

Japanese Economic Review

人口学研究

- ◆ 出張講義

茨城県立緑岡高等学校 (2012年10月26日)

氏名	山本 幸子	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任），持続環境学専攻（兼任）		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻（専任），社会システム工学専攻（専任）， 経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	ストック活用計画，住宅計画，地域計画		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 アメニティ創造のまちづくり実習
  - 大学院 都市・地域経営とまちづくり
- ◆ 指導学生数：0

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：（2012. 4～2012. 7 山口大学在職時からの継続を含む）
  - 科学研究費 若手研究 B：「連携方式を導入した空き家活用型移住支援システムの評価とモデル」（代表）
  - 住宅総合研究財団研究助成：「小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムに関する研究」（分担）
- ◆ 著書・論文等：（2012. 4～2012. 7 山口大学在職時からの継続を含む）
  - 1) 三島幸子，中園真人，平蔡大雅，山本幸子：介護保険制度導入後の高齢者通所介護サービス充足度の変化，日本建築学会技術報告集，第 18 巻，第 40 号，pp. 1025-1028，2012. 10
  - 2) 山本幸子，中園真人，利光由江，渡邊弘崇：中山間集落における空き家を活用した都市農村交流施設の整備プロセス－集落住民を主体とする改修・増築工事の事例研究－，日本建築学会計画系論文集，第 77 巻，第 676 号，pp. 1423-1430，2012. 6
  - 3) 山本幸子，伊藤優里，中園真人：山口市における「地域型つどいの広場設置助成事業」の創設と展開－既存建築を活用した子育て支援施設整備に関する研究－，日本建築学会計画系論文集，第 77 巻，第 675 号，pp. 1145-1153，2012. 5
  - 4) 中園真人，三島幸子，山本幸子：広域基幹施設と民家を活用した小規模デイサービス施設の整備プロセスと利用特性－農山漁村地域における高齢者福祉施設整備に関する研究：山口県阿武町を対象として その 1－，日本建築学会計画系論文集，第 77 巻，第 675 号，pp. 1169-1177，2012. 5

◆ 学会発表等：（2012.4～2012.7 山口大学在職時からの継続を含む）

- 1) Sachiko Yamamoto, Hiroataka Watanabe, Mahito Nakazono :Relationship between Geographical Condition and Cultivation Form of Farm Households in Mountainous Village-Case Study on Kutsuwai Village in Shimonoseki City-, Proc. of 9th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, G-3-4, Wang-Ju, Korea, 2012.10 (査読有)
- 2) Yuri Ito, Sachiko Yamamoto, Mahito Nakazono :Use Characteristics of Childcare Support Facilities Converted a Traditional Timber House in Yamaguchi City, Proc. of 9th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, A-4-7, Wang-Ju, Korea, 2012.10 (査読有)
- 3) Ayaka Yoshioka, Yuri Ito, Sachiko Yamamoto, Nakazono Mahito :Foundation of “Childcare Support Center Project” in Yamaguchi Prefecture, Proc. of 9th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, A-9-7, Wang-Ju, Korea, 2012.10 (査読有)
- 4) Sachiko Mishima, Mai Nakagawa, Mahito Nakazono, Sachiko Yamamoto : Usage of Day Service Part of Composite Welfare Facility Converted a Closed School - Case Study on ‘HIDAMARINO-SATO’ in Abu Town Yamaguchi Prefecture, Proc. of 9th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, A-6-1, Wang-Ju, Korea, 2012.10 (査読有)
- 5) Mai Nakagawa, Sachiko Mishima, Mahito Nakazono, Sachiko Yamamoto :Usage of Group Home of Composite Welfare Facility Converted a Closed School, Proc. of 9th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, A-11-5, Wang-Ju, Korea, 2012.10 (査読有)
- 6) ○山本幸子、中園真人：地方自治体による情報提供型空き家活用システムの構成と特徴－中国・四国・九州地方を対象として－，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.305-306，2012.9
- 7) ○伊藤優里、山本幸子、吉岡絢香、中園真人：子育て支援施設の設置動向と校区単位の整備水準の分析－山口県における子育て支援施設整備における研究 その1－，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.585-586，2012.9
- 8) ○吉岡絢香、山本幸子、伊藤優里、中園真人：校区别整備水準による類型化と計画課題－山口県における子育て支援施設整備における研究 その2－，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.587-588，2012.9
- 9) ○福田由美子、小林文香、山本幸子、石垣文、下倉玲子、平祐輔：小学校存続を契機とした定住支援の取り組みに関する研究その1 研究の枠組みと自治体の定住支援事業，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1145-1146，2012.9
- 10) ○平祐輔、福田由美子、小林文香、山本幸子、石垣文、下倉玲子：小学校存続を契機とした定住支援の取り組みに関する研究その2 先進自治体の取り組み事例，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1147-1148，2012.9
- 11) ○小林文香、山本幸子、石垣文、下倉玲子、福田由美子、平祐輔：小学校存続を契機とした定住支援の取り組みに関する研究その3 住民団体の取り組み事例，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1149-1150，2012.9

◆ その他：なし

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：なし

#### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動：

- 1) 2012年12月 日本建築学会技術報告集論文査読

◆ 学外から委嘱された委員：

- 1) つくば市ホテル等建築審議会委員 (2013年2月1日～)
- 2) 土浦市立学校給食センター再整備基本構想策定委員会委員 (2012年11月8日～)
- 3) 土浦市都市計画マスタープラン策定委員会委員 (2012年9月27日～)

◆ 講演・パネルディスカッション：

- 1) 2013年2月17日 山形県鶴岡市基調講演 フォーラム「空き家の適正管理と有効活用  
～鶴岡の挑戦～」
- 2) 2012年10月6日 第75回空間研究小委員会研究会「住みつぐまちの姿としくみ  
ー中山間地域の居住持続性」パネルディスカッション

氏名	山本 芳嗣	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任） コンピュータサイエンス専攻（協力）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	数理工学、最適化、オペレーションズ・リサーチ		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類：微積分 II、計算機科学、数理工学モデル化実習、プログラミング実習、サービスの産業と組織

大学院前期課程：経営工学における課題と方法、最適化理論、ビジネス戦略：理論と実践、プロジェクトマネジメント：理論と実践

### ◆ 指導学生数：

社会工学類：0名

社会システム工学専攻：4名

社会システム・マネジメント専攻：2名

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C)「厳密な最小違反順序計算アルゴリズムの開発」(代表)

科学研究費 基盤研究(C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担)

科学研究費 基盤研究(B)「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負値行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」(分担)

### ◆ 著書・論文等：

● A. Wibowo and Y. Yamamoto, “A note on kernel principal component regression,” *Computational Mathematics and Modeling* **23** (2012) 3, 350-367.

● N. Sukegawa and Y. Yamamoto, “Preference profile determining the proposals in the Gale-Shapley algorithm for stable matching problems,” *Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics* **29** (2012) 3, 547-560;  
DOI: 10.1007/s13160-012-0077-x.

● K.E. Pedings, A.N. Langville and Y. Yamamoto, “A minimum violations ranking method,” *Optimization and Engineering* **13** (2012) 2, 349-370;  
DOI: 10.1007/s11081-011-9135-5.

### ◆ 学会発表等：

◆ その他 :

日本オペレーションズ・リサーチ学会 業績賞

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 : カリキュラム委員、運営委員、戦略企画室委員

社会工学類 : 教育図書委員

4. 学外の社会貢献

◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会代議員

◆ Journal of the Operations Research Society of China の Associate editor

◆ Optimization and Engineering の Editorial board

氏名	吉瀬 章子	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	数理最適化，オペレーションズ・リサーチ，サービスサイエンス		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理計画／数学の言葉
- ◆ 大学院前期課程 先端最適化特論
- ◆ 指導学生数：計 18 名
  - システム情報工学研究科
    - 社会システム・マネジメント専攻 2名
    - 社会システム工学専攻 3名
    - 経営・政策科学専攻 6名
    - 理工学群社会工学類 7名

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤研究 (B) 「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負値行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」(代表)
  - 科学研究費 基盤研究 (A) 「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」(分担)
  - 科学研究費 基盤研究 (B) 「連続最適化による混合整数計画問題の大域的解決と情報技術への応用」(分担)
  - 科学研究費 基盤研究 (C) 「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担)
  - 共同研究 (牛久市) 「コミュニティバス運行最適化に関する研究」(代表)
  - 共同研究 (新日鉄住金ソリューション) 「VBL教育支援プログラム「サービス・イノベーションのための起業インターンシップ・プログラム」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
  - Yasuaki Matsukawa and Akiko Yoshise, “A Primal Barrier Function Phase-I Algorithm for Nonsymmetric Conic Optimization Problems,” 統計数理研究所共同研究レポート「最

適化：モデリングとアルゴリズム」306, pp.32-40, 2013/03

Satoshi Takahashi, Atsuko Takefusa, Maiko Shigeno, Hidemoto Nakada, Tomohiro Kudoh and Akiko Yoshise, "Virtual Machine Packing Algorithms for Lower Power Consumption," *4th IEEE International Conference on Cloud Computing Technology and Science*, pp.161-168, 2012/12

松川恭明, 田中彰浩, 吉瀬章子, 「対称錐ではない凸錐上の最適化問題 -完全正値行列錐と共正値行列錐にまつわるいくつかの話題-」, 第24回 RAMP シンポジウム予稿集 24, pp.69-85, 2012/09

吉瀬章子, 「高校生が挑む『●●をうまく決めて■■を最小に』」オペレーションズ・リサーチ 57/4, pp.211-217, 2012/04

◆ 学会発表等：

松川恭明, 吉瀬章子, 「非対称錐上の最適化問題に対する非許容型主内点法」, 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」2013/03/12

田中彰浩, 吉瀬章子, 「行列の共正値性を判定する新しいアルゴリズムの提案」, 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」2013/03/12

舟橋史明, 吉瀬章子, 「円パッキング問題に対する半正定値緩和に関する考察」, 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」2013/03/11

田中彰浩, 吉瀬章子, 「行列の共正値性を判定する新しいアルゴリズムの提案」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会 2013/03/05

松川恭明, 吉瀬章子, 「非対称錐上の最適化問題に対する非許容型主内点法」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2013/03/05

武林佑弥, 鵜飼孝盛, 繁野麻衣子, 吉瀬章子, 「筑波大学附属病院における病床割当のモデル化」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2013/03/05

Yasuaki Matsukawam Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "Optimization over Nonsymmetric Convex Cones Several Topics Related to the Copositive and Completely Positive Cones," The 5th International Conference on Optimization and Control with Applications (OCA 2012), 2012/12/05 (招待講演)

Yasuaki Matsukawam Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "Optimization over Nonsymmetric Convex Cones Several Topics Related to the Copositive and Completely Positive Cones," Workshop 1 on Large Scale Conic Optimization, 2012/11/22 (招待講演)

Yasuaki Matsukawam and Akiko Yoshise, "A Primal Barrier Function Phase-I Algorithm for Nonsymmetric Conic Optimization Problems," INFORMS 2012, 2012/10/16

Yasuaki Matsukawam Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "Optimization over Nonsymmetric Convex Cones Several Topics Related to the Copositive and Completely Positive Cones," RAMP2012, 2012/09/27 (招待講演)

Yasuaki Matsukawam and Akiko Yoshise, "A Primal Barrier Function Phase-I Algorithm

for Nonsymmetric Conic Optimization Problems," ISMP2012, 2012/08/21

◆ その他 :

日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員表彰 2012/07/31

### 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

(全学) ダイバーシティ推進室長

(全学) グローバルリーダーキャリア支援ネットワーク副ネットワーク長

(全学) 保育施設委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

(社シマ専攻) 社工ルネサンス WG リーダー

(社シマ専攻) サービスサイエンス学位プログラム TF リーダー

(学類) 卒業生連絡委員会委員長

### 4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)

Pacific Journal of Optimization 編集委員

日中最適化会議運営委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員

論文査読 : Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, Nonlinear Analysis Series A: Theory, Methods & Applications, 等

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

日本学術振興会 特別研究員審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員

氏名	吉野 邦彦	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任），持続環境学専攻（兼任）		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻（専任），社会システム工学専攻（専任）， 経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	環境影響評価，リモートセンシング		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類：都市計画実習，都市データ分析，環境科学とリスクマネジメント，都市計画情報実習

博士前期課程：地理情報演習，環境空間情報工学，環境共生科学概論，環境科学実習

### ◆ 指導学生数：

卒論生 0名

大学院前期課程（環境科学専攻） 4名，社会システム工学専攻 1名

大学院後期課程（持続環境学専攻） 1名（学長表彰受賞）

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

#### 1) 科研費 基盤研究（海外調査研究）(B)（分担）

大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する実証的研究

#### 2) JST 戦略的創造研究推進事業研究領域「二酸化炭素排出抑制に資する革新的技術の創出」（共同研究者）

#### 3) 科研費 基盤研究（一般）(B)（代表）湿原生態系保全のためのリモートセンシング観測諸元の解明

#### 4) 植物形態の3Dモデリング手法の開発

#### 5) 科研費 基盤研究（一般）(A)（分担）農業および水環境におけるコロイド界面現象の工学的体系化

### ◆ 著書・論文等：

1) Mohamed Kefi, Kunihiro Yoshino, Yudi Setiawan(2012), Assessment and Mapping of Soil Erosion Risk by Water in Tunisia using Time Series MODIS data, PWE, vol.10(1), pp. 59-73, DOI:10.1007/s10333-011-0265-3, (2011.2.12 accepted) (査読有)

2) Khishigsuren NYAMSAMBUU, Kunihiro YOSHINO, Yudi SETIAWAN and Mohamed KEFI, 2012, Characteristics of Spatial Distribution of Vegetation Coverage in Grassland of the Bayan Soum, Mongolia, Journal of Arid Land Studies, vol.22,

No.1, pp.231-234 (Refereed)

- 3) Kuniyiko Yoshino, Khishigsuren Nyamsambuu, Yudi Setiawan, 2012, Detecting Soil Characteristics in Arid Land by Using Landsat ETM+: Case Study of Beni-Swif, Egypt, Journal of Arid Land Studies, Vol.22, No.1, pp.291-294(Refereed)
- 4) Setiawan, Y. and Yoshino, K., 2012. Change Detection in Land-Use and land -cover Dynamics at a Regional Xcale from MODIS Time-series Imagery, ISPRS Ann. Photogramm. Remote Sens. Spatial Inf. Sci., I-7, 243-248, doi:10.5194/isprsannals-I-7-243-2012, 2012.

◆ 学会発表等 :

- 1) Setiawan, Y. and Yoshino, K. ,2012. Change detection in land-use and land-cover dynamics at a regional scale from MODIS time-series imagery. The XXII Congress of the International Society for Photogrammetry and Remote Sensing (ISPRS), 25 August - 1 September 2012, Melbourne, Australia
- 2) Pham Tien Dat, Kuniyiko Yoshino, 2012. Mangrove analysis using ALOS imagery in Hai Phong City, Vietnam. Proc. SPIE 8525, Remote Sensing of the Marine Environment II, 85250U (November 21, 2012); doi:10.1117/12.977261; <http://dx.doi.org/10.1117/12.977261>

◆ その他 :

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :  
シス情 : 研究倫理委員会委員, 全学 FD 委員会委員  
北アフリカ研究センター共同研究員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :  
SSM : 運営委員, 総務委員長  
環境科学専攻・持続環境学専攻 : 教育プログラム委員会 (カリキュラム委員会)  
JDS 委員長 (現地面接・書類選考、合否判定), 懇親会担当委員

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 非常勤講師 (学習院女子大)
- ◆ 環境マイスター講師 (環境科学専攻)
- ◆ JSPRS 論文編集委員ならびに学会評議員

氏名	渡辺 俊	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）， 環境科学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学		

## 1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
  - 学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／  
街並みデザイン演習／アメニティ創造のまちづくり実習／  
東京の都市学／アカデミックコミュニケーション
  - 大学院 空間情報科学／環境デザイン論
- ◆ 指導学生数：
  - 社会工学類 2人／社会システム工学専攻 5人／

## 2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
  - 科学研究費 基盤研究(A)「地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の新展開」  
(分担)
- ◆ 著書・論文等：
  - 渡辺俊：科学研究費助成事業に見る建築学研究の社会ネットワーク分析、本建築学会計画系論文集、第683号、281頁～288頁、2013年1月
  - 渡辺俊 他：建築のデザイン科学、共著、京都大学出版会、2012年5月
  - 渡辺俊：デザインと図式、デザイン科学シンポジウム資料、日本建築学会、2012年6月
  - 渡辺俊：メディアは機能したか？、東日本大震災から情報システム技術を考える-情報共有、復旧・復興からスマートシティまで-、日本建築学会大会研究協議会資料、87頁～88頁、2012年9月
  - 渡辺俊：デザイン言語を学ぶ、第3回デザイン科学シンポジウム資料、日本建築学会、2013年3月
- ◆ 学会発表等：
  - 松林道雄、渡辺俊：国立大学での施設管理における設計図書の情報化 大学施設の設計図書に関するアンケート調査を通して、2012年度日本建築学会学術講演梗概集、17頁～18頁、2012年9月
  - 北野竜太、渡辺俊：世田谷区住民参加まちづくり事業の変遷について 参加手法および行

政組織・支援制度に着目して、2012年度日本建築学会学術講演梗概集、297頁～298頁、  
2012年9月

渡辺俊：建築学研究の社会ネットワーク分析、第34回情報・システム・利用・技術シン  
ポジウム論文集、163頁～166頁、2012年12月

### 3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 社会工学分野 コンピュータ委員  
社会システム工学専攻 修論委員  
社会工学類 コンピュータ委員、授業評価・FD委員
  
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員

氏名	渡辺 真一郎	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	組織行動論，産業・組織心理学		

## 1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営組織論/社会調査実習/経営工学概論

大学院 組織行動論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人 / 社会システム工学専攻 1人 / 経営・政策科学専攻 7人

社会システム・マネジメント専攻 1人

## 2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤（B）看護行動研究への組織心理学アプローチ（代表）

◆ 著書・論文等：

Kwantes, C. T., Arbour, S., & Watanabe, S. (2012). Contextualizing the Relationship between Person-Job Fit and Job Satisfaction in Japanese and Canadian Nurses., *Japanese Journal of Administrative Science*, 25, 29-43.

◆ 学会発表等：

Watanabe, S., & Nishizawa, T. (forthcoming). A stimulus/traits-organism-response (S/T-O-R) model of job satisfaction. To be present at the 25<sup>th</sup> Annual Convention of the *Association for Psychological Science*, Washington, D. C.

Watanabe, S., Lee, F., & Kwantes, C. T. (2012). When Nurses' Agreeableness Affects Patients' Satisfaction: A Mediating Role of Therapeutic Communication. *Association for Psychological Science Proceedings 2012*, 48.

◆ その他：

## 3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

理工学群 総合政策室委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 カリキュラム委員、教職課程委員

S S M 予算委員（図書関係担当）

#### 4. 学外の社会貢献

- ◆ 経営行動科学学会ワークショップ担当理事
- ◆ 経営行動科学編集委員
- ◆ Cornell Admissions Ambassador Association Network 日本支部委員

氏名	渡邊 直樹	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻（専任）		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻（専任），経営・政策科学専攻（専任）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	ゲーム理論、実験経済学		

## 1. 教育

### ◆ 担当授業科目：

学類 ミクロ経済学、artisocによる人工社会構築入門、社会工学実習、  
社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習

大学院：応用ゲーム理論

### ◆ 指導学生数：

社会工学類 1人、社会システム工学専攻 2人、経営政策・科学専攻（研究生） 1人  
社会システム・マネジメント専攻（副指導）1人

## 2. 研究

### ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手（B）

「パテントプールにおける利得配分問題：提携形成、研究開発投資、効率性」（代表）

科学研究費 基盤研究（B）

「組織間提携の形成、維持、拡大：気候変動枠組条約への応用」（分担）

日本学術振興会 フランス国立科学研究センター（CNRS）二国間交流事業共同研究

「状況認識と行動学習の相互作用に関する二国間比較」（分担）

日本学術振興会 フランス国立研究機構（ANR）二国間交流事業共同研究

「エージェントシミュレーション研究に関する行動認識論的基礎付け」（分担）

### ◆ 著書・論文等：

「不確実性下の一般均衡分析：効率的配分の実行可能性」

藪下史郎 監修、「ミクロ経済学」所収 ミネルヴァ書房、2013 刊行予定

「非対称情報下の市場均衡：情報の経済学」

藪下史郎 監修、「ミクロ経済学」所収 ミネルヴァ書房、2013 刊行予定

「プリンシパル・エージェント問題：契約理論」

藪下史郎 監修、「ミクロ経済学」所収 ミネルヴァ書房、2013 刊行予定

「ミクロ経済学理論におけるコンピューショナルアプローチ」

渡邊直樹、国本隆、堀一三 編著「ミクロ経済学のフロンティア（仮題）」所収

ミネルヴァ書房 2014 刊行予定

◆ 学会発表等：

“A Methodological Note on Weighted Voting Experiments,” 2013 Asia-Pacific Meeting of the Economic Science Association, February 16, 2013

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究科（掲載不可）

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻（掲載不可）

社会工学類 2年生担任、授業評価委員

社会工学ルネサンス委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学外委員

2012年度 東京経済研究センター（TCER）マイクロコンファレンス

（18回ディセントラライゼーションコンファレンス） プログラム委員、

京都大学グローバル生存学大学院連携ユニット経済実験室運営委員会運営委員

青山学院大学経済学部 非常勤講師